

施工単価表

施工名称: [Redacted]  
 規格:  
 条件区分: [Redacted]

号数: 第6-2号  
 単位: 10t当り  
 単価: [Redacted]

No	名称/規格	数量	単位	単価	金額	備考
1	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
2	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
3	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
4	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
5	[Redacted]		日	[Redacted]	[Redacted]	
6	[Redacted]		%	[Redacted]	[Redacted]	
7	計				[Redacted]	
8	1t当り				[Redacted]	

施工単価表

施工名称: [Redacted]  
 規格:  
 条件区分: [Redacted]

号数: 第6-3号  
 単位: 10t当り  
 単価: [Redacted]

No	名称/規格	数量	単位	単価	金額	備考
1	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
2	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
3	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
4	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
5	[Redacted]		日	[Redacted]	[Redacted]	
6	[Redacted]		%	[Redacted]	[Redacted]	
7	計				[Redacted]	
8	1t当り				[Redacted]	

施工単価表

施工名称: [Redacted]  
 規格: [Redacted]  
 条件区分: [Redacted]

号数: 第7-1号  
 単位: 10枚当り  
 単価: [Redacted]

日当り施工量: [Redacted]  
 施工数量: [Redacted]  
 施工日数: [Redacted]

No	名称/規格	数量	単位	単価	金額	備考
1	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
2	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
3	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
4	[Redacted]		日	[Redacted]	[Redacted]	第7-2号
5	[Redacted]		%	[Redacted]	[Redacted]	
6	計					
7	1枚当り					

施工単価表

施工名称: [Redacted]  
 規格: [Redacted]  
 条件区分: [Redacted]

号数: 第7-2号  
 単位: 1日当り  
 単価: [Redacted]

No	名称/規格	数量	単位	単価	金額	備考
1	[Redacted]		人	[Redacted]	[Redacted]	
2	[Redacted]		L	[Redacted]	[Redacted]	
3	[Redacted]		供用日	[Redacted]	[Redacted]	
4	[Redacted]		供用日	[Redacted]	[Redacted]	
5	[Redacted]		式	[Redacted]	[Redacted]	
6	計					
7	1日当り					

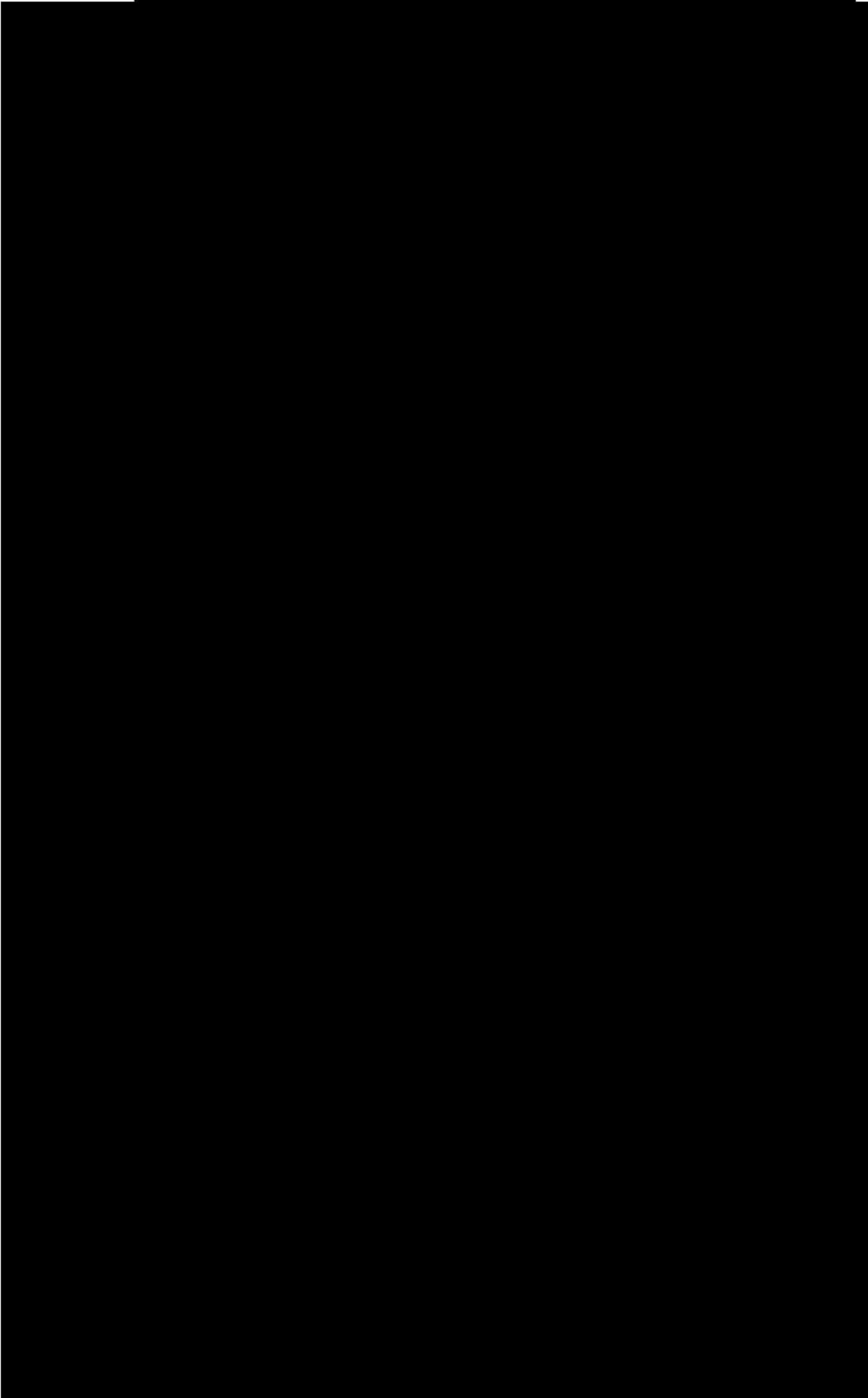
施工単価表

施工名称: [Redacted]  
 規格: [Redacted]  
 条件区分: [Redacted]

号数: 第8-1号  
 単位: 1t当り  
 単価: [Redacted]

日当り施工量: [Redacted]  
 施工数量: [Redacted]  
 施工日数: [Redacted]

No	名称/規格	数量	単位	単価	金額	備考
1	[Redacted]		t	[Redacted]	[Redacted]	
2	[Redacted]		t	[Redacted]	[Redacted]	
3	[Redacted]		式	[Redacted]	[Redacted]	
4	計				[Redacted]	
5	1t当り				[Redacted]	





## 2.1.6 設計図

# 道路概略検討（3北南一小金井3・4・11外2路線）

## 設 計 図

令和4年 12月

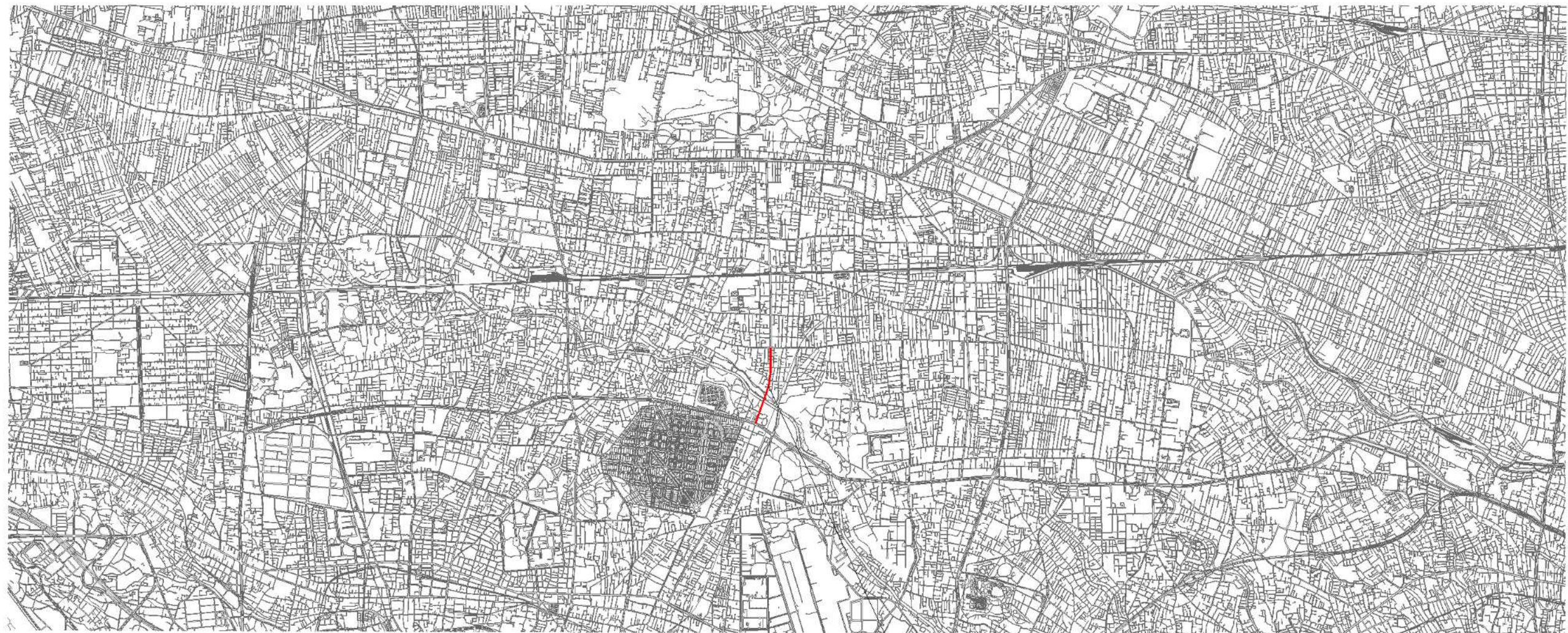
東京都 建設局 北多摩南部建設事務所  
株式会社 復建エンジニアリング

## 図 面 目 録

図面名称		枚数	図面番号	図面名称		枚数	図面番号
位	置	1	P 1				
平	面	2	P 2 ~ P 3				
縦	断	2	P 4 ~ P 5				
標	準	1	P 6				
横	断	4	P 7 ~ P 10				



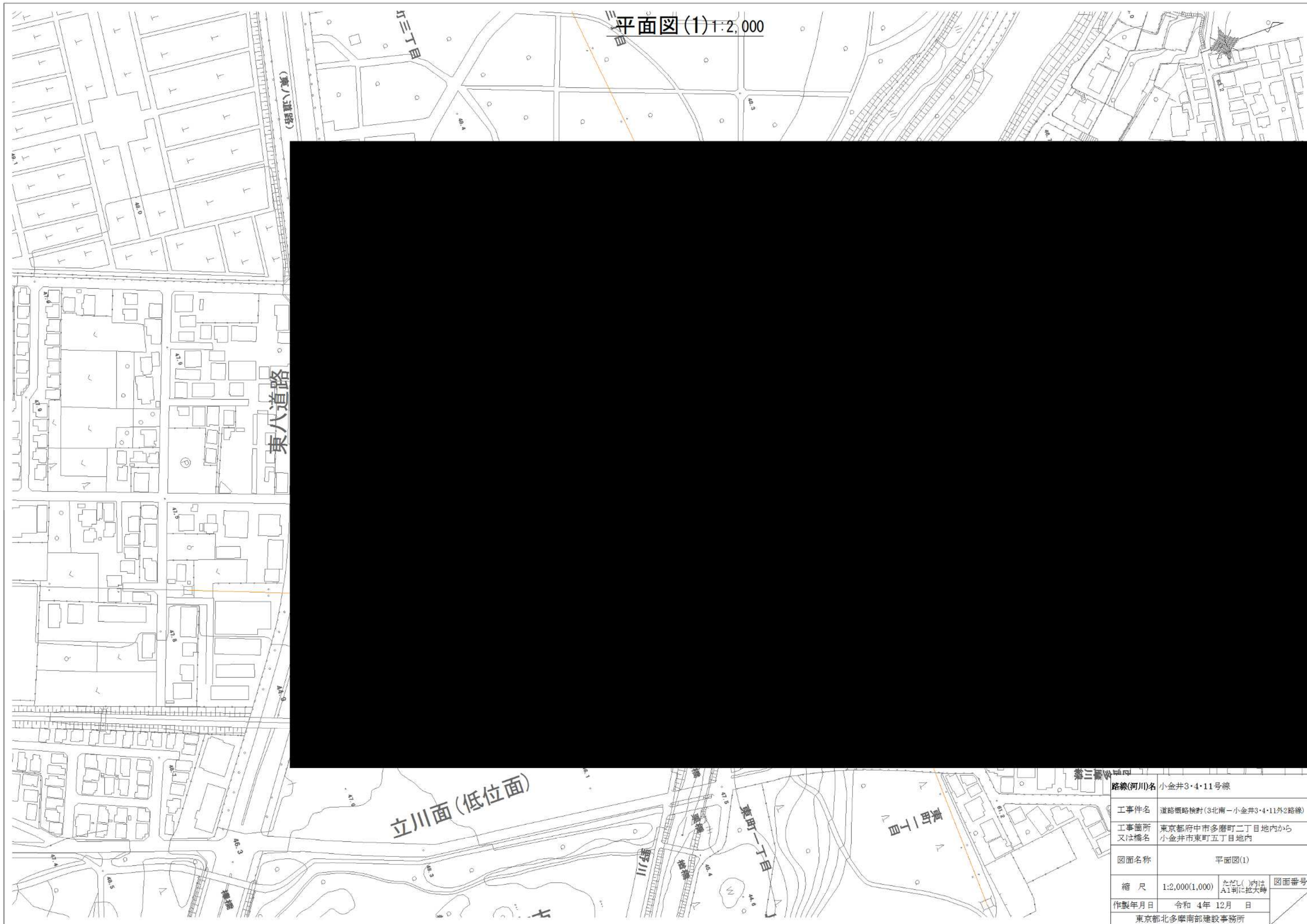
位置図 1:50,000



設計箇所

路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	位置図		
縮尺	1:50,000(25,000)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月 日		
東京都北多摩南部建設事務所			





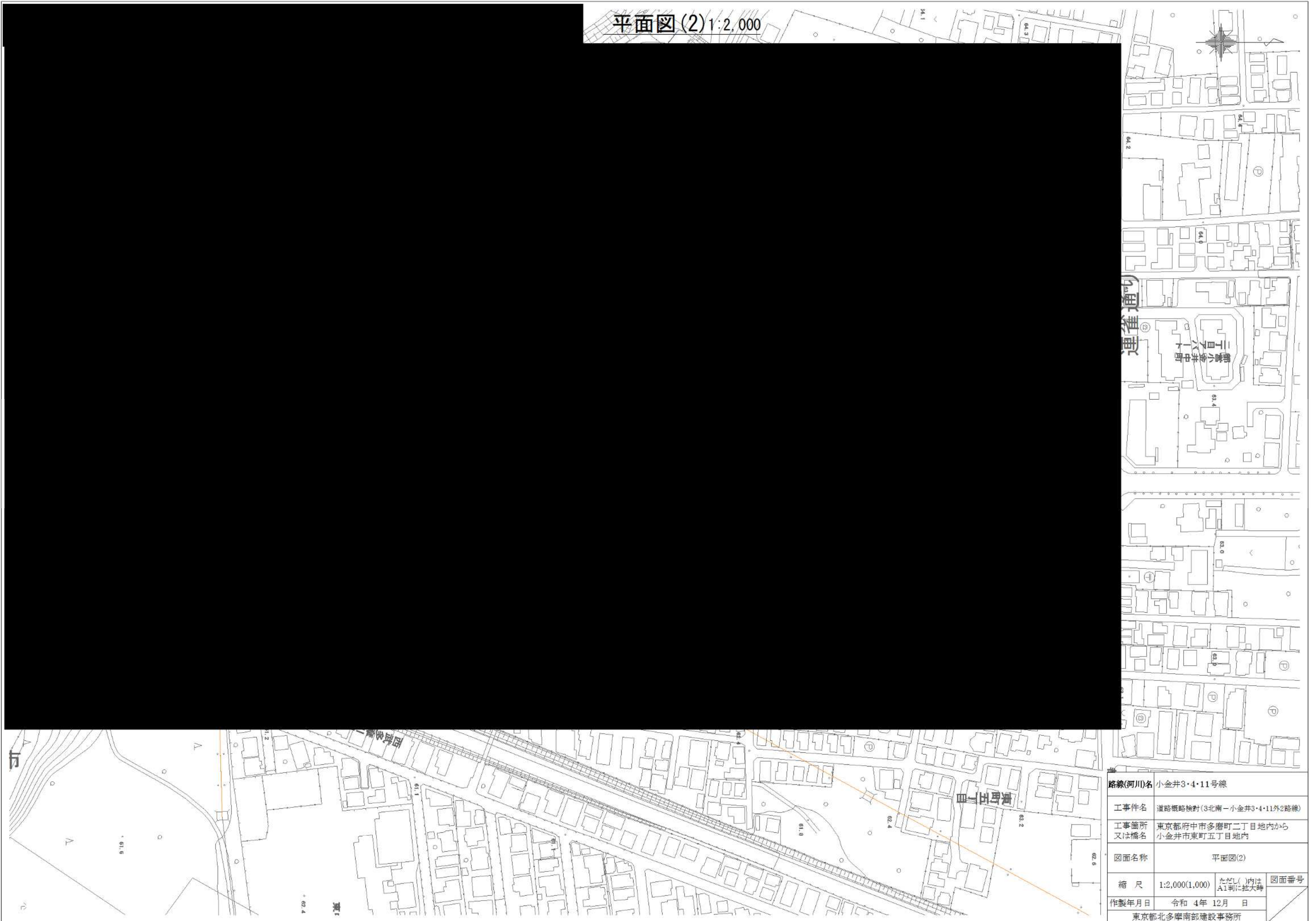
平面图(1) 1:2,000

東八道路

立川面(低位面)

路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	平面图(1)		
縮尺	1:2,000(1,000)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月 日		
東京都北多摩南部建設事務所			

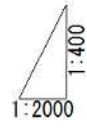
平面図(2) 1:2,000



路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	平面図(2)		
縮尺	1:2,000(1,000)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月 日		
東京都北多摩南部建設事務所			



縦断図(1) H=1:2,000 V=1:400



DL=30.000

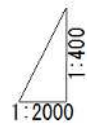


片勾配
曲率
測点
単距離
累加距離
地盤高
計画高
切土高
盛土高
勾配

BP	0.000	0.000	47.800
EC 1-0	15.006	15.006	47.981
+35.000	19.994	35.000	48.035
NO. 1	15.000	50.000	48.064
+25.000	25.000	75.000	48.112
NO. 2	25.000	100.000	48.161
NO. 3	50.000	150.000	48.093
EC 2-0 NO. 4	47.213 2.787	197.213 200.000	47.100 47.100
NO. 5	50.000	250.000	47.100
NO. 6	50.000	300.000	45.825
BC 3-0 NO. 7	50.000 2.019	350.000 352.019	48.300 48.164 52.008
NO. 8	45.000	400.000	62.041
NO. 9	50.000	450.000	62.240
NO. 10	50.000	500.000	63.009
NO. 11	50.000	550.000	63.140

路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	縦断図(1)		
縮尺	H=1:2,000(1,000) V=1:400(200)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月 日		
東京都北多摩南部建設事務所			

縦断図(2) H=1:2,000 V=1:400



DL=30.000



片勾配  
曲线  
測点  
単距離  
累加距離  
地盤高  
計画高  
切土高  
盛土高  
勾配

測点	NO. 11	NO. 12	EC 3-0	NO. 13	NO. 14	NO. 15	NO. 16	BB. 17
単距離	50.000	50.000	31.108	18.892	50.000	50.000	50.000	50.000
累加距離	550.000	600.000	631.108	650.000	700.000	750.000	800.000	850.000
地盤高	63.140	63.195	63.329	63.314	63.223	63.131	63.529	63.800

路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	縦断図(2)		
縮尺	H=1:2,000(1,000) V=1:400(200)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月 日		
東京都北多摩南部建設事務所			

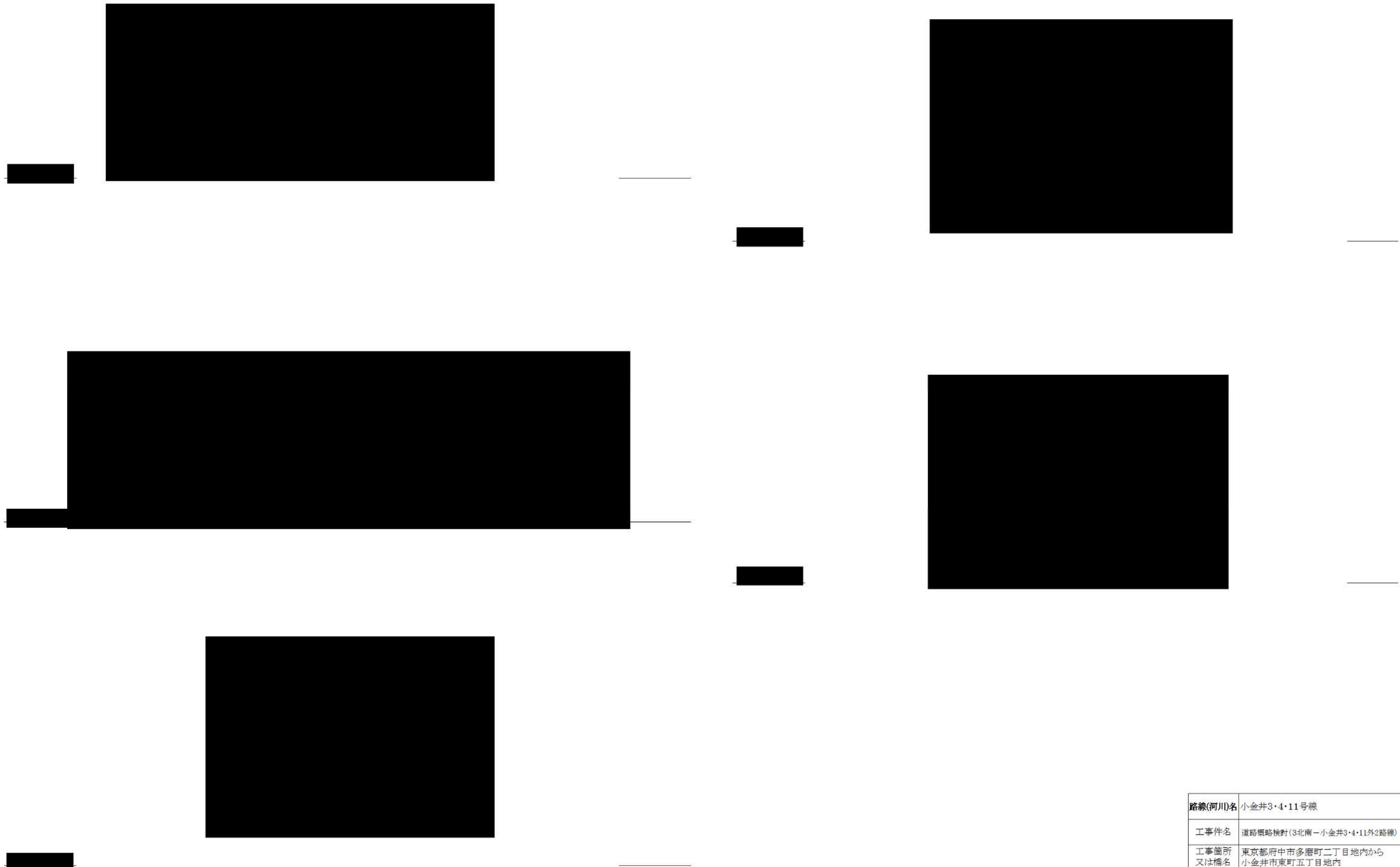


標準横断図 1:200



路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	標準横断図		
縮尺	1:200(1:100)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月 日		
	東京都北多摩南部建設事務所		

横断図(1) 1:400



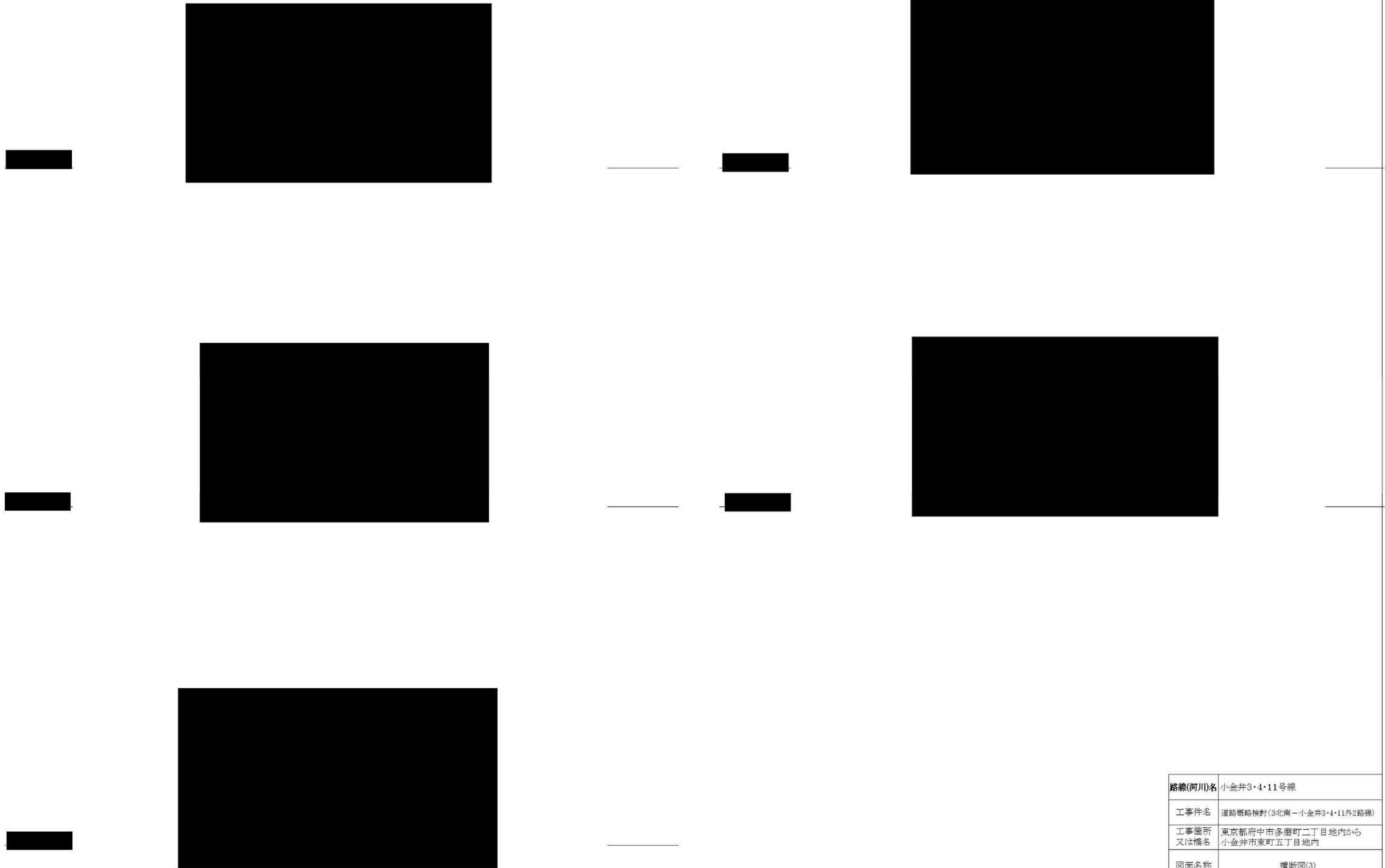
路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	横断図(1)		
縮尺	1:400(1:200)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月		
	東京都北多摩南部建設事務所		

横断図(2) 1:400



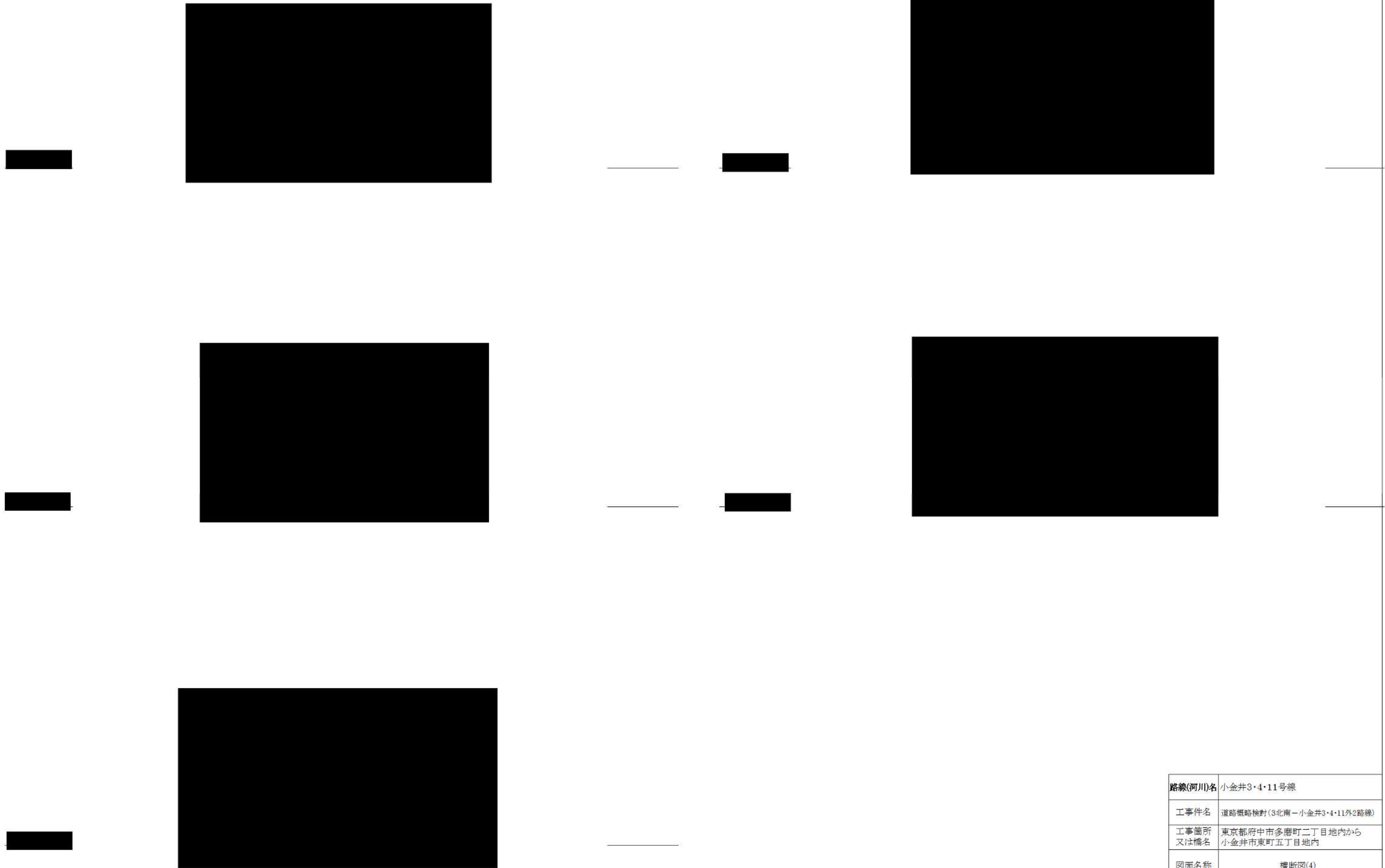
路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	横断図(2)		
縮尺	1:400(1:200)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月		
	東京都北多摩南部建設事務所		

横断図(3) 1:400



路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	横断図(3)		
縮尺	1:400(1:200)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月		
	東京都北多摩南部建設事務所		

横断図(4) 1:400



路線(河川)名	小金井3・4・11号線		
工事件名	道路概略検討(3北南-小金井3・4・11外2路線)		
工事箇所 又は橋名	東京都府中市多磨町二丁目地内から 小金井市東町五丁目地内		
図面名称	横断図(4)		
縮尺	1:400(1:200)	ただし( )内は A1判に拡大時	図面番号
作製年月日	令和 4年 12月		
	東京都北多摩南部建設事務所		

### 2.1.7 協議用資料

協議用資料として、

作成を行った。

協議用資料

令和 年 月 日

東京都 北多摩南部建設事務所

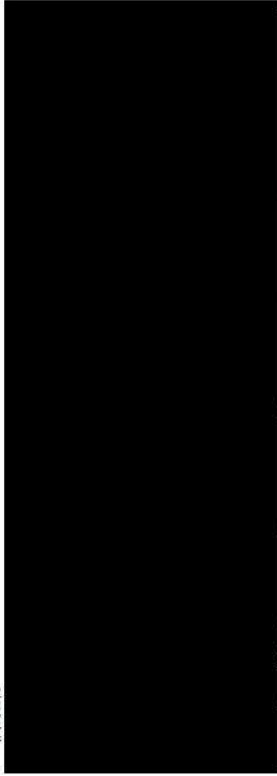
1. 概要

小金井都市計画道路 3・4・11 号線及び府中都市計画道路 3・4・16 号線のうち、小金井市と府中市にまたがる東八道路から蓮花通りまでの未着手区間(延長約 830m)については、平成 28 年 3 月、東京都、特別区、26 市 2 町で策定された「東京における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)」において、優先整備路線として選定されている。

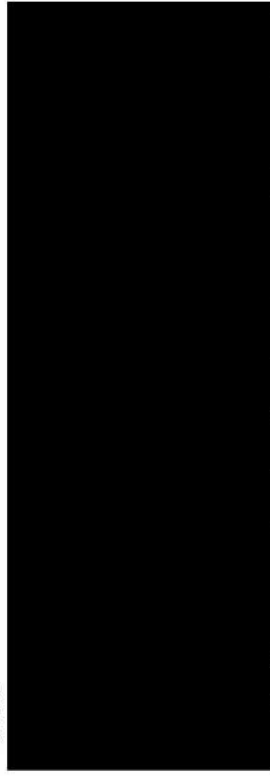
本路線は自然が多く残っている地域を通過することから、自然環境や景観にどのように配慮すべきか、市民の皆様との意見交換会や説明会、オープンハウスを開催し、適宜、情報提供を行うとともに、広くご意見・ご質問等を伺いながら検討を進めている。

当該路線は、北部の住宅地から概ね高低差 15m 程度の国分寺崖線の狭み、野川、武蔵野公園を通り東八道路に接続する。野川の渡河や国分寺崖線の高低差の取り付けのため、複数の道路構造を検討したうえで「橋梁案」「掘削案」「地下案」などが候補として上がっている。

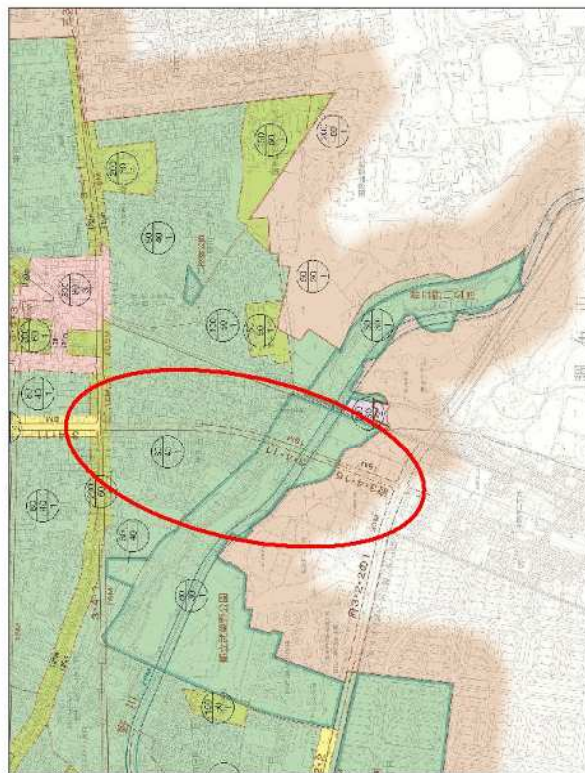
・橋梁案



・掘削案

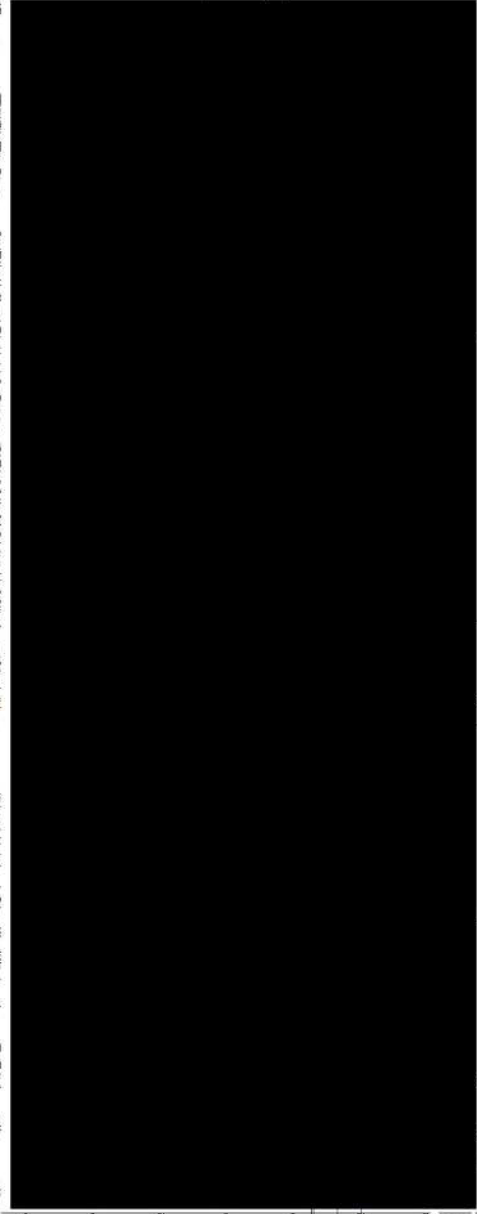
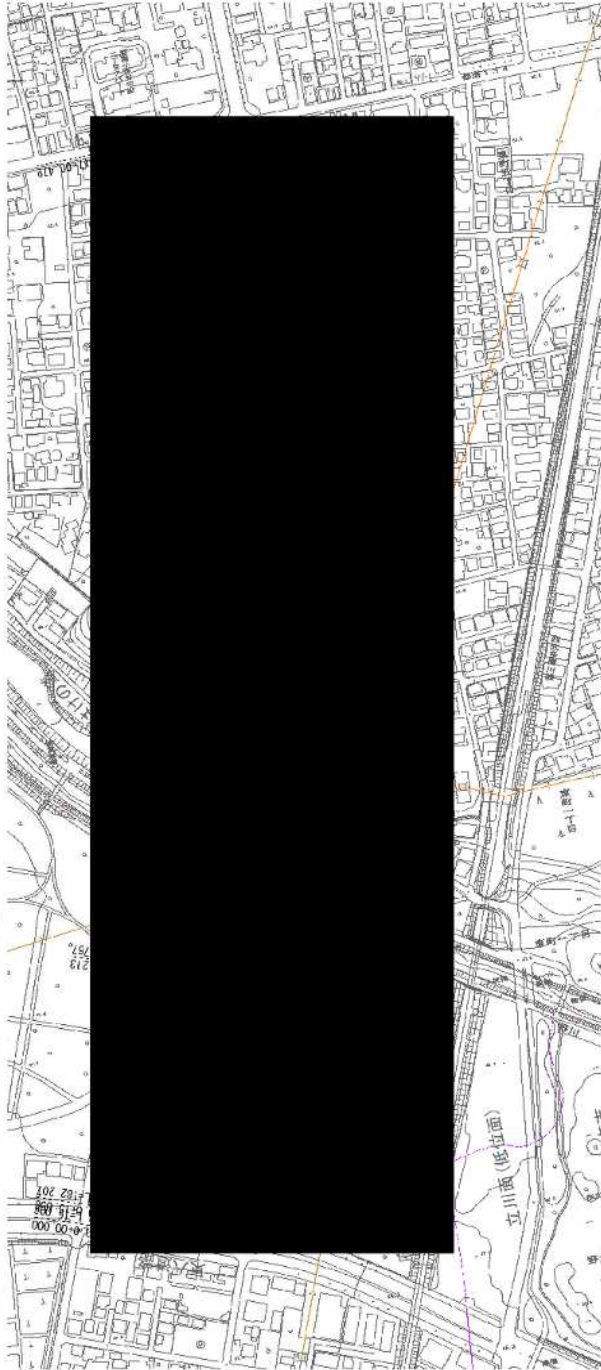


・地下案

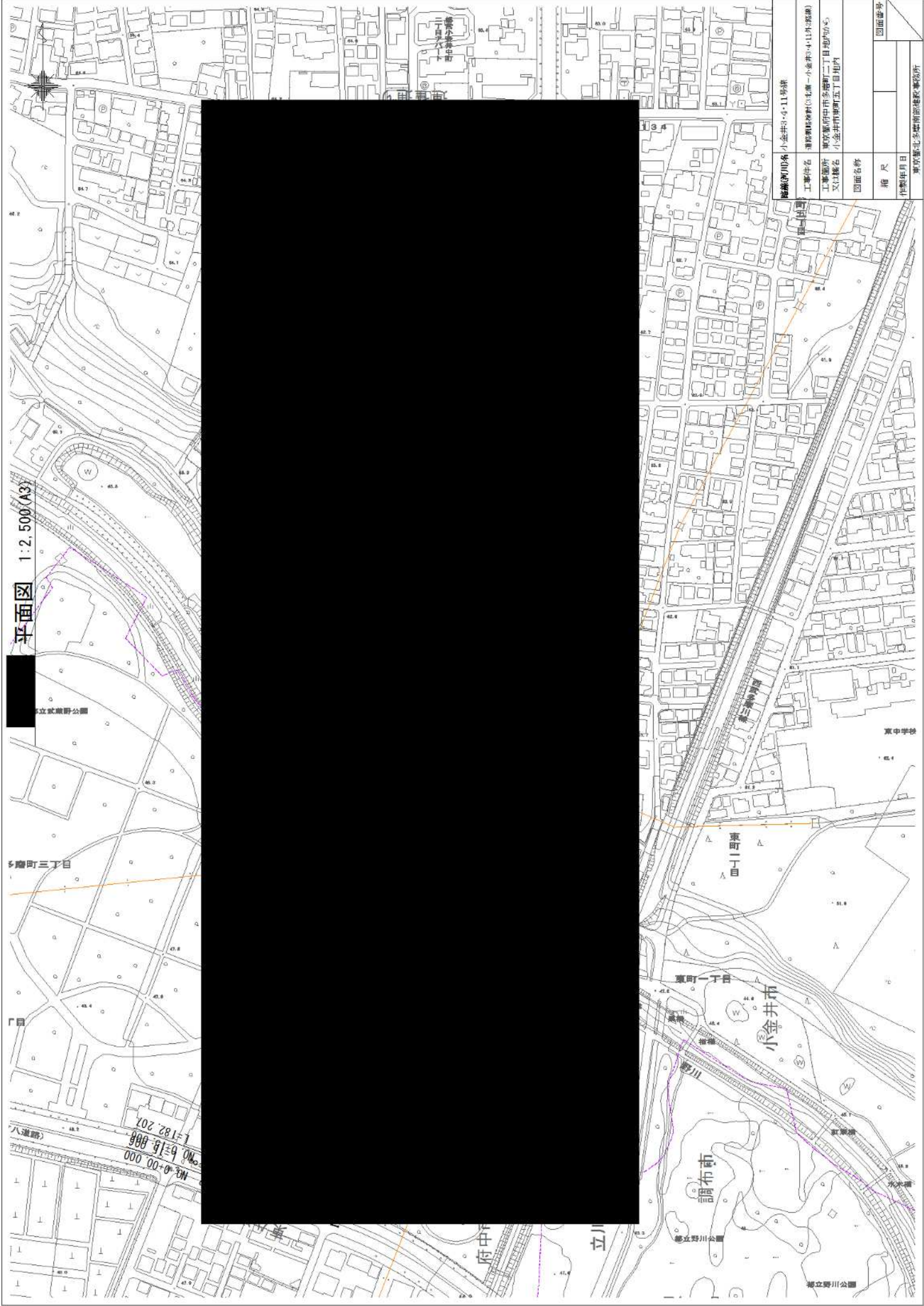


小金井市用途地域図より





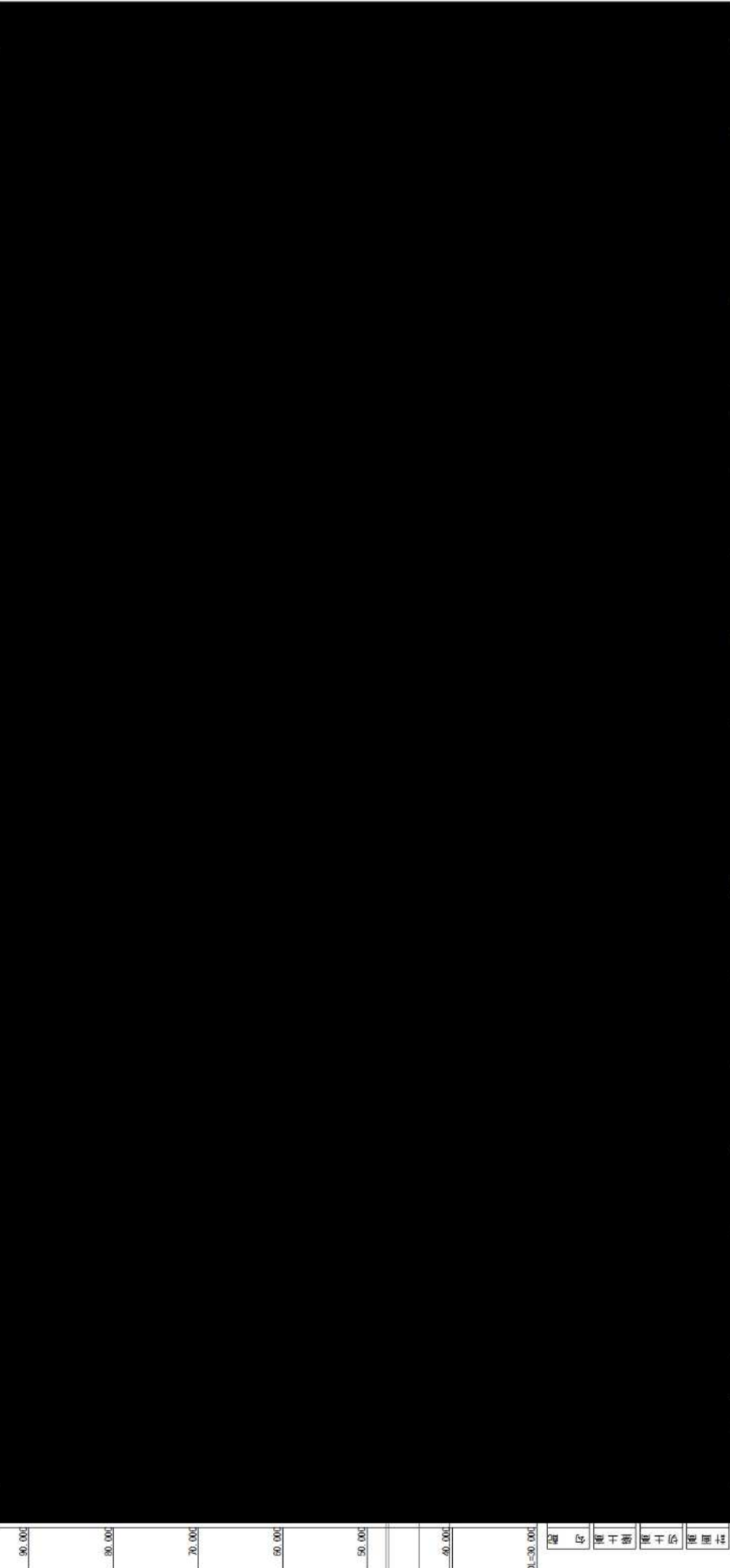
2



平面図 1:2,500 (A3)

建築計画名	小金井3-4-11号棟
工事主名	建設者様(北小金井3-4-11号地区)
工事箇所	東京都府中市多摩町二丁目地区内
又は種名	小金井市東町五丁目地区内
図面名称	
縮尺	
作成年月日	
図面番号	

縦断面 1:2,500 (A3)



標高	距離	断面	説明
0.000	0.000	BP	
15.006	15.006	EO-1-0	
19.994	35.000		
48.064	50.000		
48.112	75.000		
48.161	100.000		
48.093	150.000		
47.100	200.000		
47.100	250.000		
45.825	300.000		
50.000	350.000		
50.000	400.000		
50.000	450.000		
50.000	500.000		
50.000	550.000		
50.000	600.000		
63.195	631.108		
63.229	631.108		
63.214	650.000		
63.223	700.000		
63.131	750.000		
63.529	800.000		
63.800	850.000		
63.800	900.000		



## 2.2 環境影響予測及び評価検討

地下水及び動物・植物に係る環境影響予測及び評価検討を実施した。

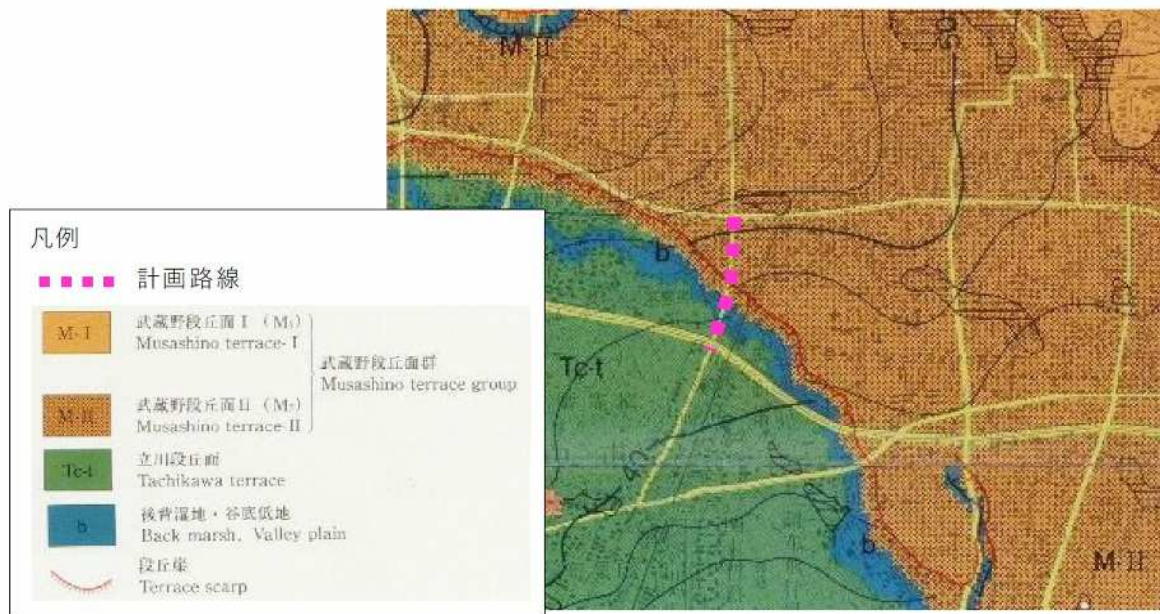
### 2.2.1 地下水

#### (1) 地下水等の状況

##### ア 地形の状況

計画路線周辺の地形の状況は図 2.2.1-1 に示すとおりである。

計画路線は武蔵野台地に位置し、起点となる南側の地形は立川段丘面、終点となる北側の地形は武蔵野段丘面に分類され、計画路線の中央付近において両段丘面を区切る段丘崖（国分寺崖線）及び国分寺崖線に沿って立川段丘面上を流下する野川と交差する。当該地域の地形は多摩川の出水等により形成された河岸段丘であり、立川段丘面と武蔵野段丘面とで約 15m の高低差がある。



資料：土地分類基本調査（5万分の1、東京西北部）（平成10年、東京都）

図 2.2.1-1 地形分類図

##### イ 地質の状況

計画路線沿いの想定地質縦断図は図 2.2.1-2～図 2.2.1-4 に示すとおりである。当該地域の地層は上総層群を基盤とし、その上部に立川礫層及び武蔵野礫層が重なり、表部は関東ローム層及び埋土で覆われている。

80.000

70.000

No. 1  
T.P. 47.97m  
dep = 18.35 m

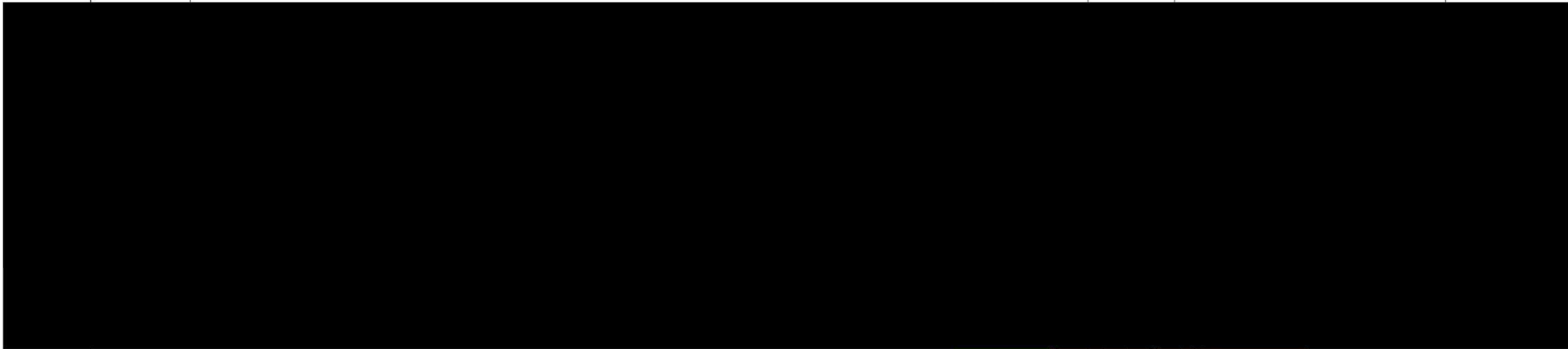
No. 2  
T.P. 45.08m  
dep = 17.33 m

No. 3  
T.P. 46.82m  
dep = 20.45 m

No. 5  
T.P. 50.74m  
dep = 33.25 m

No. 4  
T.P. 57.67m  
dep = 14.45 m

No. 6  
T.P. 61.01m  
dep = 11.60 m



20.000

1/2

凡例

地層層序

時代	地層名	地層記号	主な土質名
完新世	表土・埋土・崩積土	T	黒ボク
	崩積土	dt	ローム質砂礫 粘土, 砂質粘土
第四紀	黒ボク	Kb	黒ボク
	立川ローム	Lm1	ローム, 粘土
	立川礫層	Tg	砂礫
	武蔵野ローム	Lm2	ローム
	武蔵野礫層	Mg	砂礫, 細砂
更新世	砂質土層	KZ-s	細砂, 粘土混じり細砂, 粘土質細砂, 砂質粘土
	浮石層	KZ-p	浮石, 細砂
	固結粘土層	KZ-c	粘土, 砂混じり粘土, シルト, 砂質粘土
	礫質土層	KZ-g	砂礫, 礫混じり細砂, 細砂

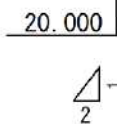
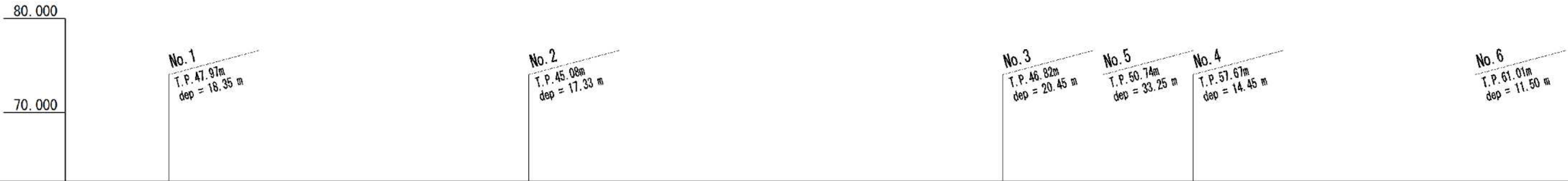
- 観測井 ストレナーナ位置
- ▽ 観測水位 (2022/3/17 日平均値)
- ▽ 観測水位 (2022/9/26 日平均値)

- 計画線
- - - 推定地下水位



※この想定地質縦断図は、「地質調査(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年3月、東京都北多摩南部建設事務所、大建基礎株式会社)」及び「地質調査(3北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年10月、東京都北多摩南部建設事務所、大建基礎株式会社)」の成果を補正したものである。  
※ここでは、現時点で想定している道路計画の「橋梁案」を、赤線で示した。

図 2.2.1-2 想定地質縦断図1 ※橋梁案を重ねた場合



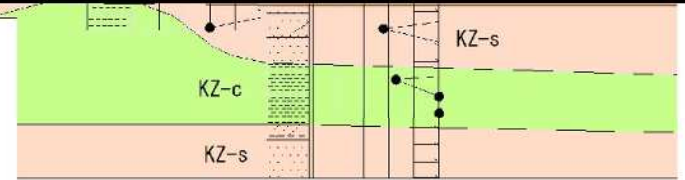
凡例

地層層序

時代	地層名	地層記号	主な土質名
完新世	表土・埋土・崩積土	T	黒ボク
	崩積土	dt	ローム質砂礫、粘土、砂質粘土
第四紀	黒ボク	Kb	黒ボク
	立川ローム	Lm1	ローム、粘土
	立川礫層	Tg	砂礫
	武蔵野ローム <small>(立川ロームを含む)</small>	Lm2	ローム
	武蔵野礫層	Mg	砂礫、細砂
更新世	砂質土層	KZ-s	細砂、粘土混じり細砂、粘土質細砂、砂質粘土
	浮石層	KZ-p	浮石、細砂
	固結粘土層	KZ-c	粘土、砂混じり粘土、シルト、砂質粘土
	礫質土層	KZ-g	砂礫、礫混じり細砂、細砂

観測井 ストレーナ位置  
 観測水位 (2022/3/17 日平均値)  
 観測水位 (2022/9/26 日平均値)

計画線  
 推定地下水位



※この想定地質縦断図は、「地質調査(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年3月、東京都北多摩南部建設事務所、大建基礎株式会社)」及び「地質調査(3北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年10月、東京都北多摩南部建設事務所、大建基礎株式会社)」の成果を補正したものである。  
 ※ここでは、現時点で想定している道路計画の「掘割案」を、赤線で示した。

図 2.2.1-3 想定地質縦断図2 ※掘割案を重ねた場合



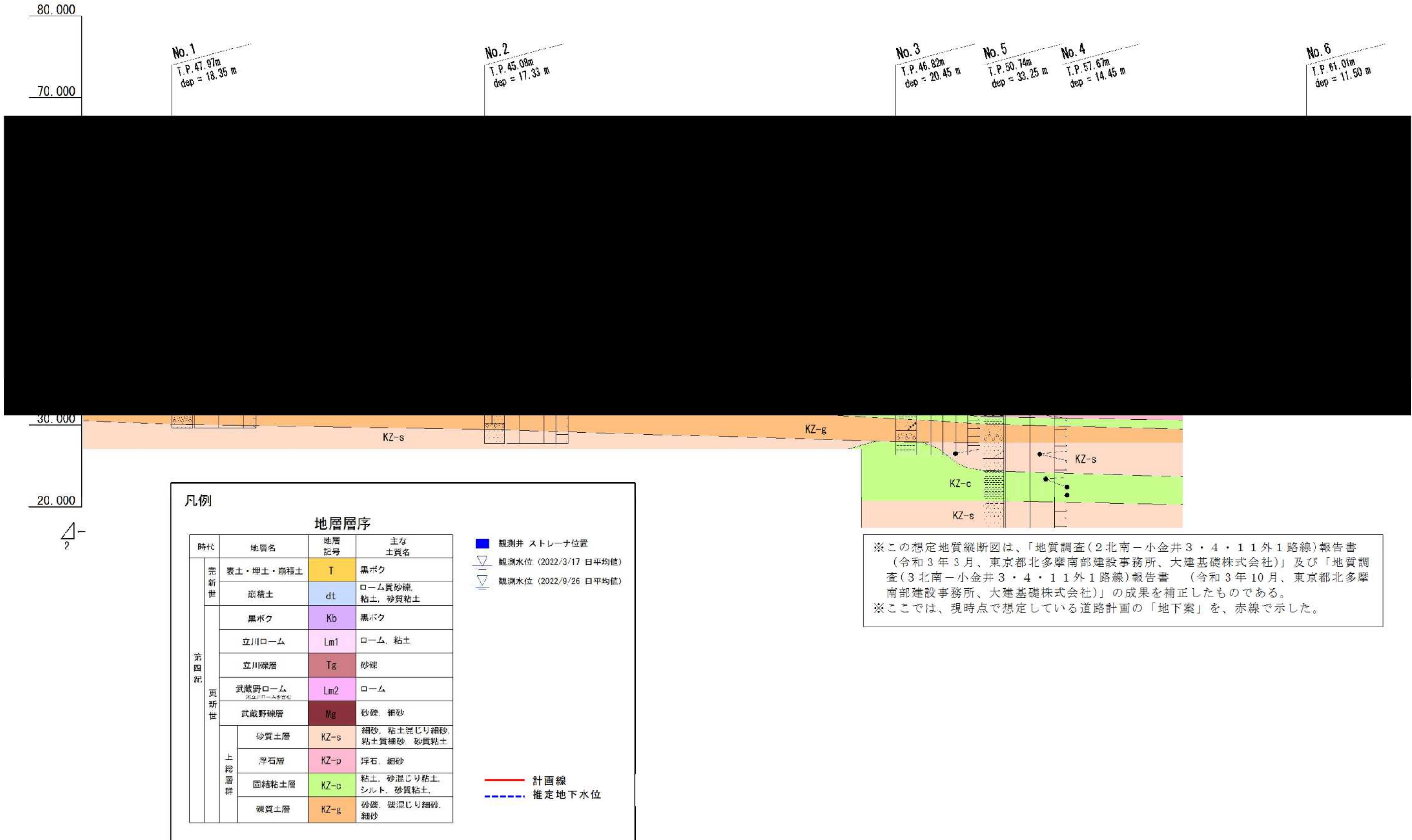


図 2.2.1-4 想定地質縦断図3 ※地下案を重ねた場合

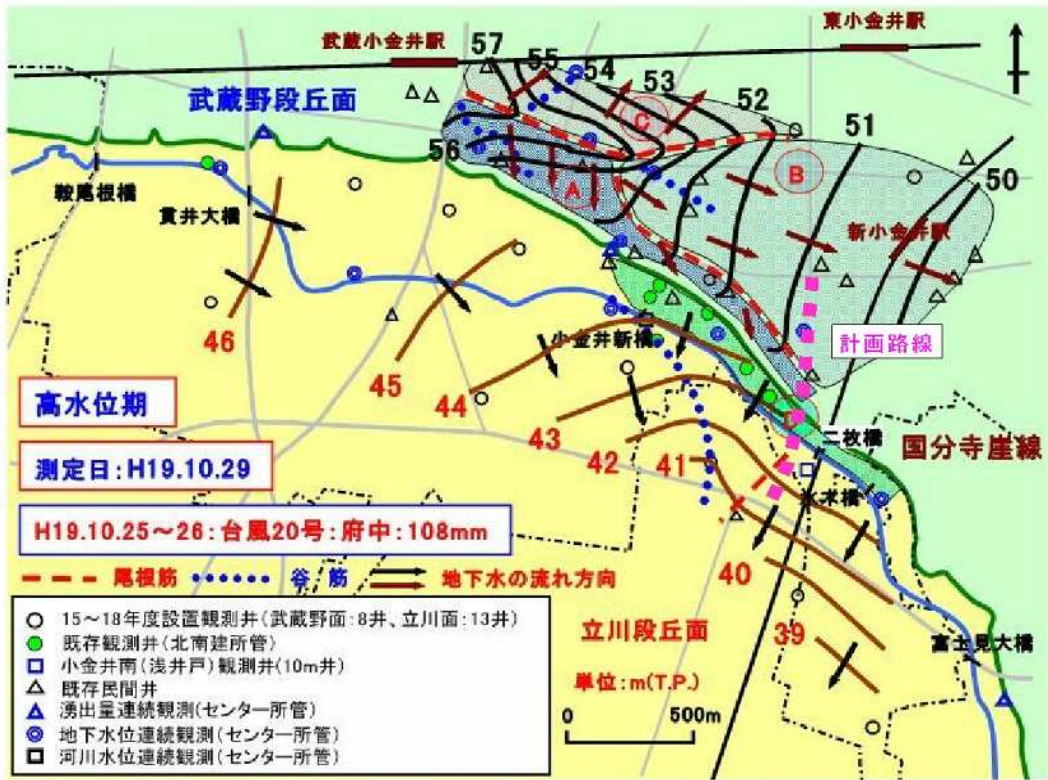
## ウ 地下水等の状況

計画路線沿いの想定地質縦断図は図 2.2.1-2～図 2.2.1-4 に示したとおりで、計画路線及びその周辺において地表面に近い浅層地下水を胚胎する帯水層は、武蔵野礫層、立川礫層と、これらに連続する上総層群上層の砂質土層及び礫質土層と想定される。なお、上総層群には、浅層地下水の帯水層以深に固結粘土層が存在し、さらに下位には深層地下水を胚胎すると想定される砂質土層及び礫質土層が分布している。

計画路線周辺の浅層地下水の状況は図 2.2.1-5 に示すとおりである。既存資料によると、武蔵野段丘面における計画路線周辺の地下水の流れ方向は大きく北西から南東方向であり、計画路線縦断方向に対し直交に近い関係となっている。ただし、国分寺崖線頂端から北側に尾根筋があり、この尾根筋を境に武蔵野段丘面から立川段丘面方向に流下する地下水の流れも見られる。なお、武蔵野段丘面に分布する浅層地下水は立川段丘面に分布する浅層地下水に対し一段高い状況にあり、武蔵野段丘面に分布する地下水が段丘崖である国分寺崖線を介し、湧水として地表に湧出している（図 2.2.1-6 参照）。

立川段丘面における計画路線周辺の地下水の流れ方向は大きく北から南方向であり、計画路線の縦断方向と概ね並行に流動している。





※図中のA、B、Cは、武蔵野段丘面の地下水面を2つの尾根筋(赤破線)で3地域に区分したものである。

資料: 野川上流域における河川水量確保に関する検討(平20.都土木技術センター年報)

図 2.2.1-5 計画路線周辺の地下水の状況

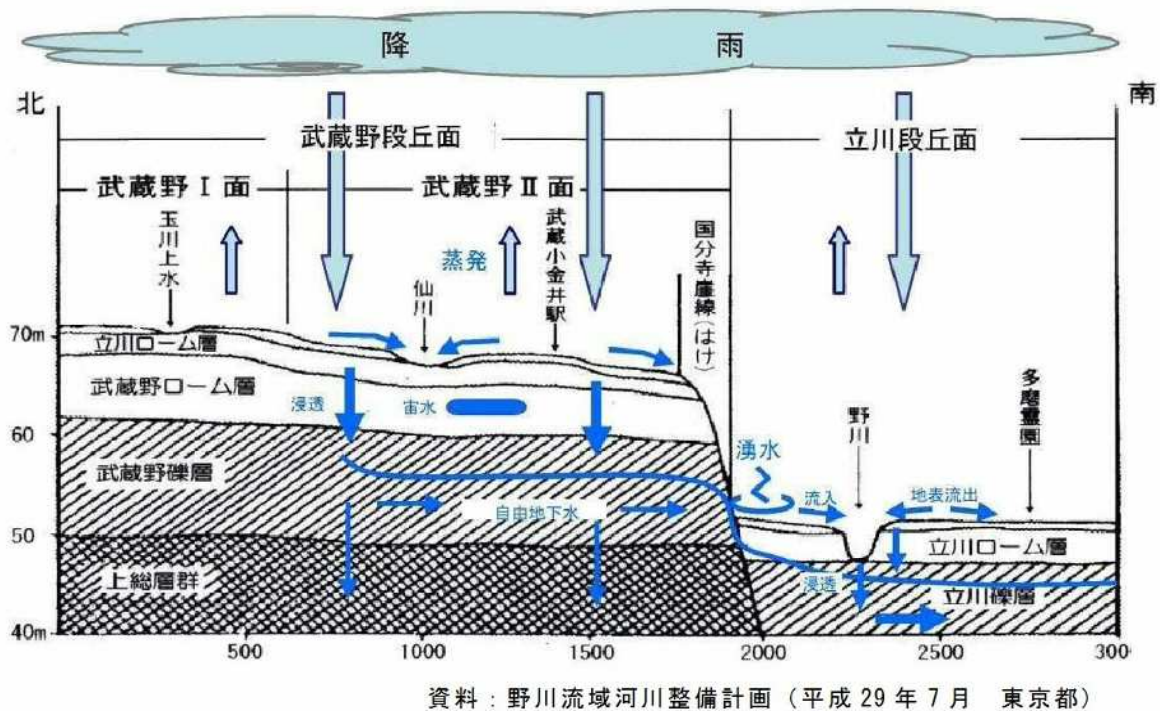


図 2.2.1-6 計画路線周辺の地質構造及び浅層地下水の概念図

計画路線周辺で実施した地下水位の現地調査結果を表 2.2.1-1 及び図 2.2.1-7 に示す。この現地調査は、計画路線周辺の 9 箇所に観測井を設置し、2021 年 11 月 15 日より自記水位計による連続測定を行ったものである。

立川面の No. 1、No. 2、No. 3 で測定された地下水位は TP. 42~43m 前後であり、GL からの深さは約 2.5~5.5m と、比較的浅い深度で地下水層が出現する。なお、北側の No. 3 から南側の No. 1 に向かうにつれ水位が低くなっている。また、水位の時間変動は概ね同じ状況にあり、降雨に対する敏感な反応が確認される。

武蔵野面の No. 4、No. 6、No. 7、No. 9 で測定された地下水位は TP. 50~51m 前後で、地域の地下水流動の上流に該当する No. 6 の水位が他の地点に対し約 1m ほど高い状況にある。GL からの深さは約 9~10m である。水位の時間変動の傾向は概ね同じで、降雨に対する反応は立川面の地下水に比べ緩やかな傾向にある。

立川面と武蔵野面との水位差を比較するとその差は約 7~8m である。また、崖線中腹部に該当する No. 5、No. 8 の水位は、立川面と武蔵野面の中間にあたる水位を示している。なお、全体的な水位変動傾向として、2 月から 3 月が低水位期であることが確認される。

これらは、既存文献に示されている地域の地下水の傾向と概ね一致している。



表 2.2.1-1 現地調査結果（地下水の水位）

調査地点 (観測井標高(T.P.))		No.1 (47.97)	No.2 (45.08)	No.3 (46.82)	No.4 (57.67)	No.5 (50.74)	No.6 (61.01)	No.7 (59.80)	No.8 (51.16)	No.9 (60.01)
対象層		立川面	立川面	立川面	武蔵野面	崖線部	武蔵野面	武蔵野面	崖線部	武蔵野面
		Tg	Tg	Tg	Mg、KZs	KZs	Mg、KZs	Mg、KZs	KZs	Mg、KZs
2021.11	最大値(T.P.)	42.63	42.75	43.05	50.00	49.38	51.10	49.98	47.16	49.94
	最小値(T.P.)	42.54	42.68	42.88	49.93	49.29	51.02	49.86	47.12	49.81
	変動幅	0.09	0.07	0.17	0.07	0.09	0.08	0.12	0.04	0.13
	平均値(T.P.)	42.59	42.71	42.94	49.96	49.34	51.05	49.91	47.14	49.87
2021.12	最大値(T.P.)	42.86	43.02	43.56	50.10	49.28	51.17	49.99	47.38	49.94
	最小値(T.P.)	42.56	42.65	42.93	49.94	49.15	51.02	49.87	47.14	49.81
	変動幅	0.30	0.37	0.63	0.16	0.13	0.15	0.12	0.24	0.13
	平均値(T.P.)	42.69	42.75	43.11	50.02	49.21	51.12	49.94	47.21	49.90
2022.1	最大値(T.P.)	42.56	42.64	42.91	49.93	49.15	51.09	49.86	47.13	49.81
	最小値(T.P.)	42.42	42.54	42.72	49.74	49.05	50.93	49.67	47.09	49.63
	変動幅	0.14	0.10	0.19	0.19	0.10	0.16	0.19	0.04	0.18
	平均値(T.P.)	42.48	42.59	42.80	49.84	49.10	51.00	49.76	47.11	49.72
2022.2	最大値(T.P.)	42.44	42.57	42.85	49.73	49.04	50.95	49.67	47.14	49.62
	最小値(T.P.)	42.35	42.48	42.67	49.66	48.92	50.82	49.62	47.08	49.57
	変動幅	0.09	0.09	0.18	0.07	0.12	0.13	0.05	0.06	0.05
	平均値(T.P.)	42.40	42.52	42.72	49.69	48.98	50.91	49.64	47.10	49.59
2022.3	最大値(T.P.)	42.49	42.62	43.02	49.74	48.91	50.81	49.64	47.23	49.60
	最小値(T.P.)	42.29	42.41	42.56	49.60	48.79	50.59	49.59	47.09	49.54
	変動幅	0.20	0.21	0.46	0.14	0.12	0.22	0.05	0.14	0.06
	平均値(T.P.)	42.38	42.51	42.72	49.66	48.83	50.66	49.62	47.14	49.57
2022.4	最大値(T.P.)	42.91	42.92	43.57	50.02	48.79	51.13	49.83	47.40	49.77
	最小値(T.P.)	42.44	42.57	42.82	49.73	48.71	50.61	49.65	47.16	49.60
	変動幅	0.47	0.35	0.75	0.29	0.08	0.52	0.18	0.24	0.17
	平均値(T.P.)	42.62	42.69	43.04	49.93	48.74	50.96	49.78	47.23	49.70
2022.5	最大値(T.P.)	42.73	42.78	43.19	50.02	48.71	51.17	49.84	47.25	49.78
	最小値(T.P.)	42.47	42.60	42.80	49.92	48.67	51.09	49.79	47.13	49.66
	変動幅	0.26	0.18	0.39	0.10	0.04	0.08	0.05	0.12	0.12
	平均値(T.P.)	42.55	42.66	42.93	49.97	48.69	51.14	49.82	47.17	49.71
2022.6	最大値(T.P.)	42.69	42.79	43.20	49.98	48.67	51.11	49.82	47.18	49.70
	最小値(T.P.)	42.47	42.62	42.78	49.83	48.64	51.03	49.74	47.09	49.60
	変動幅	0.22	0.17	0.42	0.15	0.03	0.08	0.08	0.09	0.10
	平均値(T.P.)	42.54	42.67	42.89	49.91	48.66	51.08	49.79	47.14	49.66
2022.7	最大値(T.P.)	42.77	42.87	43.24	49.92	48.64	51.04	49.80	47.17	49.67
	最小値(T.P.)	42.44	42.61	42.75	49.73	48.62	50.95	49.69	47.06	49.55
	変動幅	0.33	0.26	0.49	0.19	0.02	0.09	0.11	0.11	0.12
	平均値(T.P.)	42.53	42.69	42.88	49.82	48.63	50.99	49.75	47.10	49.61
2022.8	最大値(T.P.)	42.71	42.86	43.34	49.82	48.62	50.96	49.81	47.16	49.67
	最小値(T.P.)	42.43	42.62	42.76	49.68	48.59	50.84	49.72	47.04	49.58
	変動幅	0.28	0.24	0.58	0.14	0.03	0.12	0.09	0.12	0.09
	平均値(T.P.)	42.51	42.68	42.87	49.77	48.60	50.90	49.77	47.10	49.63
2022.9	最大値(T.P.)	43.21	43.26	43.86	50.12	48.59	51.29	50.18	47.40	50.03
	最小値(T.P.)	42.41	42.60	42.75	49.67	48.55	50.80	49.73	47.06	49.59
	変動幅	0.80	0.66	1.11	0.45	0.04	0.49	0.45	0.34	0.44
	平均値(T.P.)	42.62	42.76	43.03	49.81	48.56	50.93	49.85	47.15	49.71
2022.10	最大値(T.P.)	42.87	42.95	43.41	50.02	48.55	51.28	50.17	47.29	50.02
	最小値(T.P.)	42.57	42.75	42.97	49.87	48.54	51.06	50.00	47.16	49.85
	変動幅	0.30	0.20	0.44	0.15	0.01	0.22	0.17	0.13	0.17
	平均値(T.P.)	42.69	42.82	43.11	49.95	48.54	51.17	50.11	47.23	49.97

※表中に記載した調査結果の対象期間：2021年11月15日～2022年10月31日

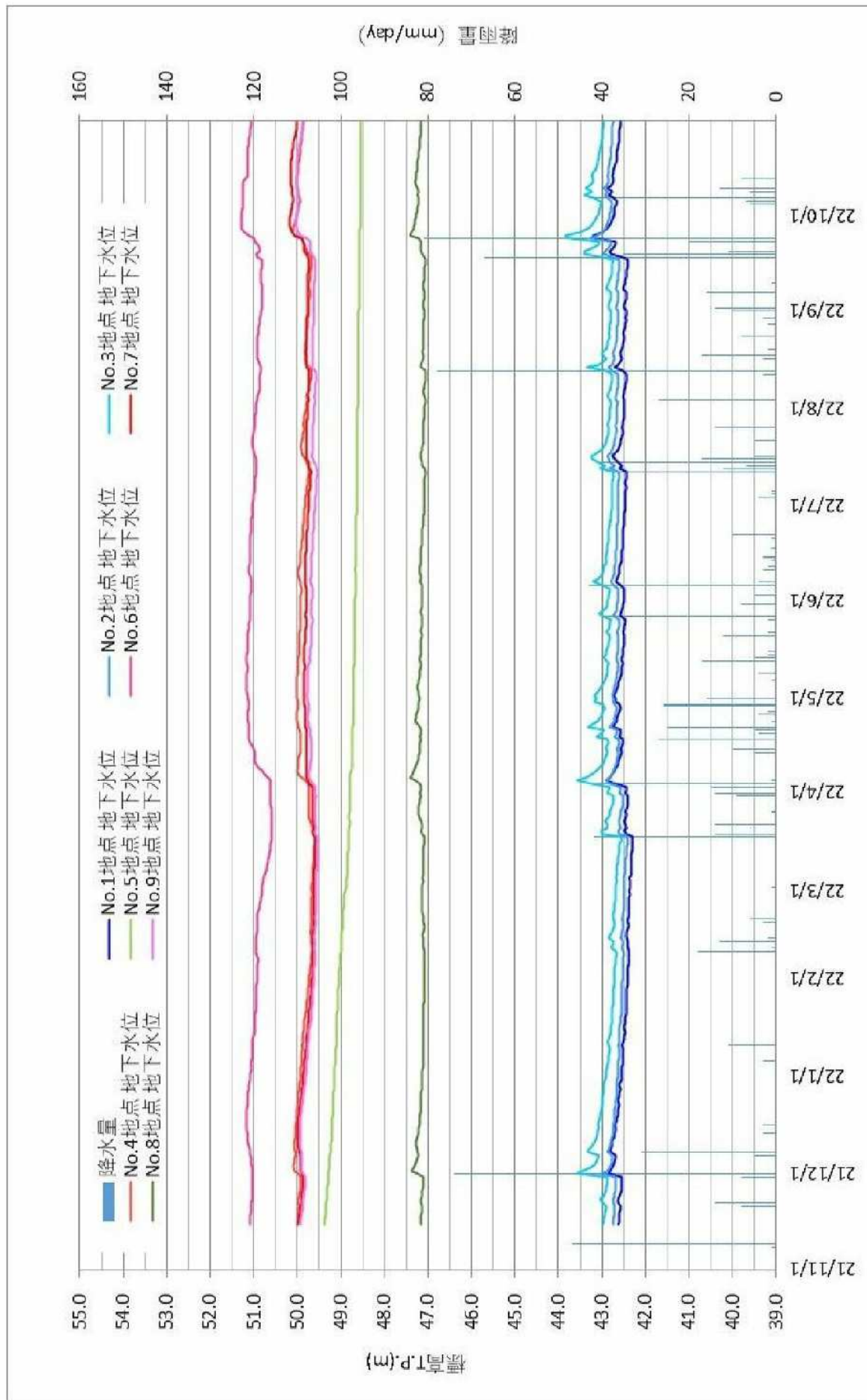


図 2.2.1-7 現地調査結果（地下水の水位の変動状況、日平均値）



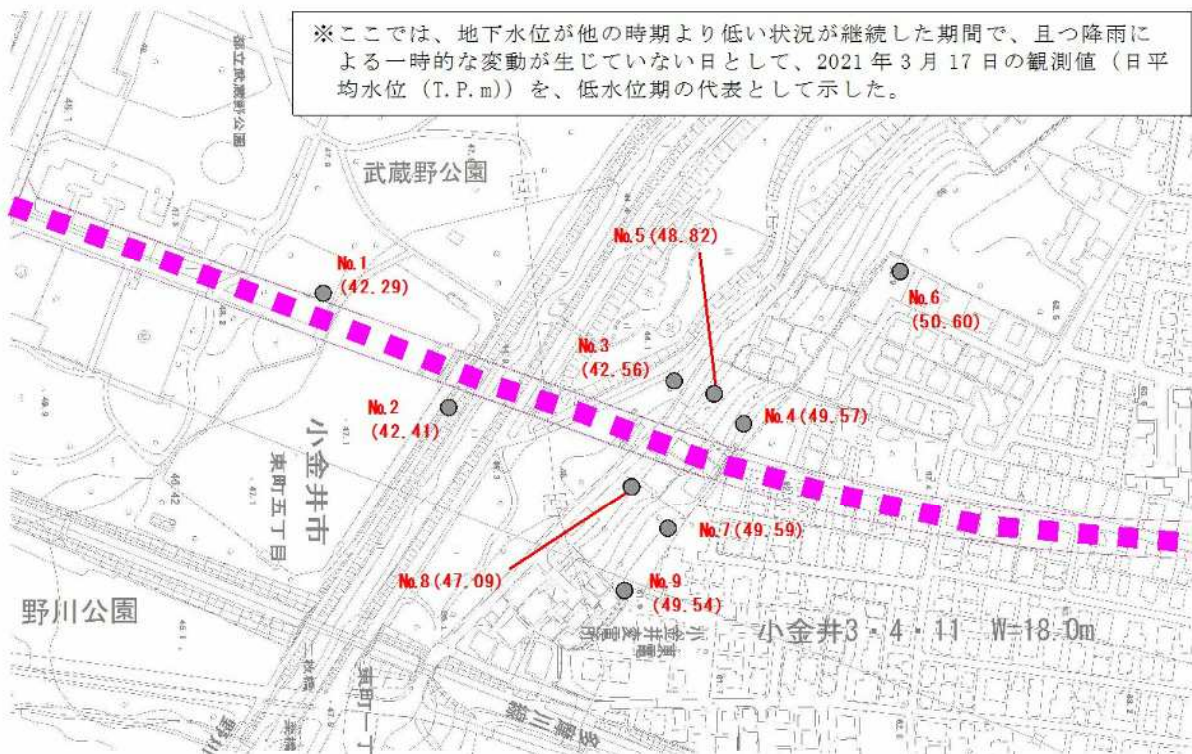


図 2.2.1-8 現地調査地点と観測状況（低水位期）

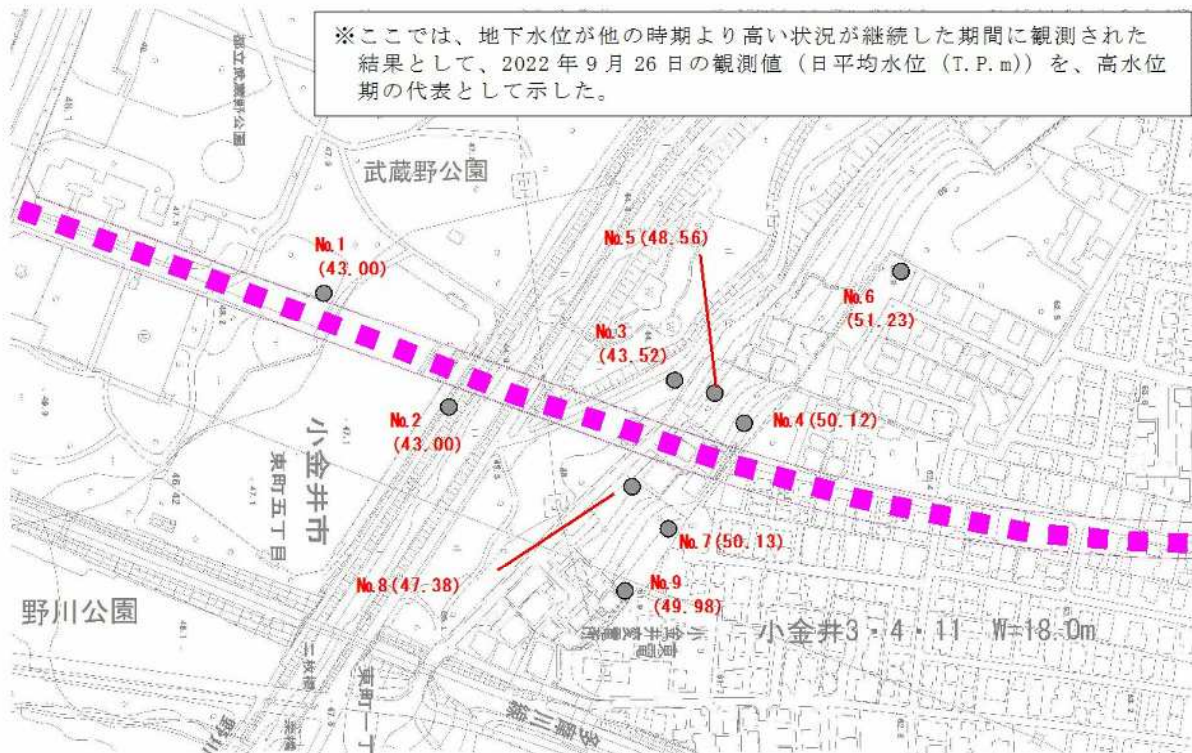


図 2.2.1-9 現地調査地点と観測状況（高水位期）

## オ 湧水の状況

「東京の湧水マップ 平成 30 年度調査」に示されている主な湧水地点は図 2.2.1-10 のとおりであり、計画路線に近接する湧水として、南東側約 500m 付近の「都立野川公園蜚池流入口 (Mu-68)」、南東側約 910m 付近の「野川公園 (Mu-37、41、42)」、北西側約 850m 付近の「美術の森緑地 (Mu-65)」が示されている。この内、「野川公園」及び「美術の森緑地 (はげの森美術館)」については、東京の名湧水 57 選に選定されている湧水となる。なお、上述した地域の地下水の流れを考慮した場合、南東側の「都立野川公園蜚池流入口」及び「野川公園」は計画路線から下流側に位置することとなる。

また、計画路線に隣接する野川第一調節池内には、国分寺崖線からの湧水を活用しピオトープとして整備された「ドジョウ池」が存在する。なお、ドジョウ池に流入する湧水の涵養域は、上述した地域の地下水流動から、計画路線の上流側に分布する武蔵野礫層の地下水であると推察される。



資料：東京の湧水マップ 平成 30 年度調査

図 2.2.1-10 計画路線周辺の主な湧水



## キ 河川の状況

計画路線が交差する野川は多摩川の一次支川であり、国分寺市東恋ヶ窪の株式会社日立製作所中央研究所敷地内の大池に源を発し、国分寺崖線の湧水を集めながら崖線下をほぼ南東方向に流れ、小金井市、三鷹市、調布市及び狛江市を経て、世田谷区二子玉川付近で多摩川に合流している。野川の支川には仙川及び入間川があり、その他に清水川、逆川、佐須用水等が流入している。

湧き水を主たる水源とする野川では、流域の市街化により雨水が地下に浸透しにくい状況が生まれ、水の需給バランスが維持されるような望ましい水循環の形成が困難になっている。結果、安定した流量が確保できず、しばしば瀬切れが発生する状況となっている。そのため、野川では河川流量を確保するため、粘土張りにより河川水の地下への浸透を低減する対策が行われている。



資料：野川流域河川整備計画 概要（東京都 HP）

図 2.2.1-11 河川の状況

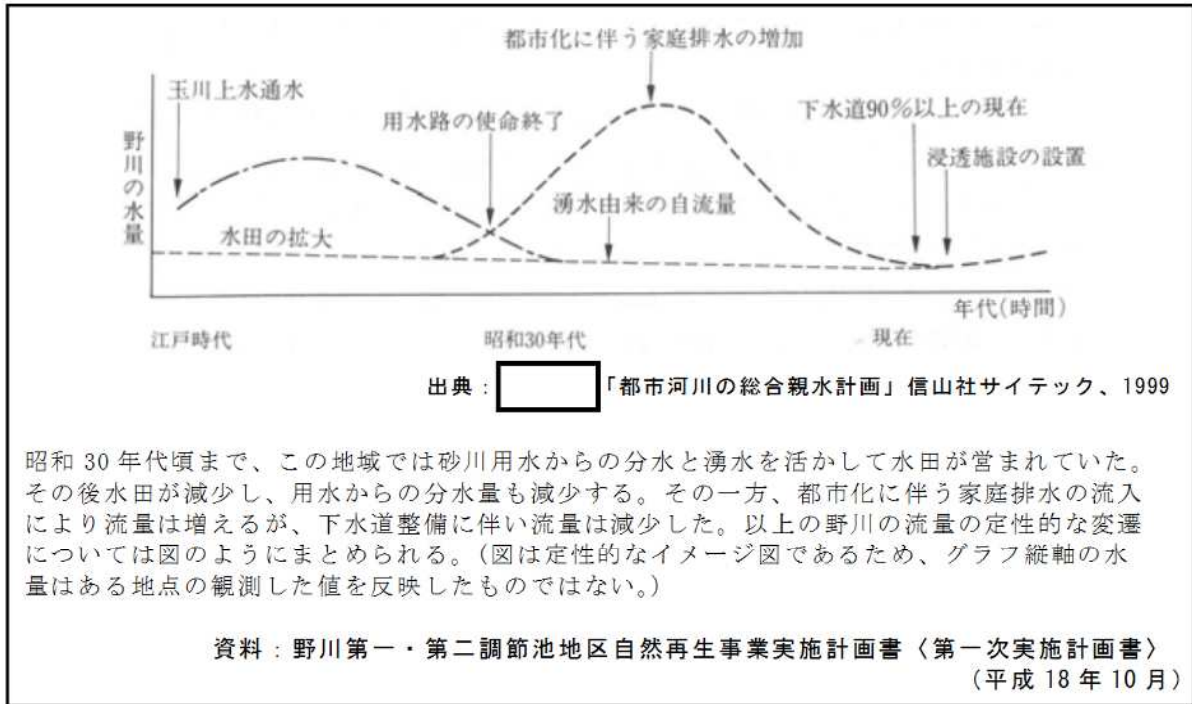
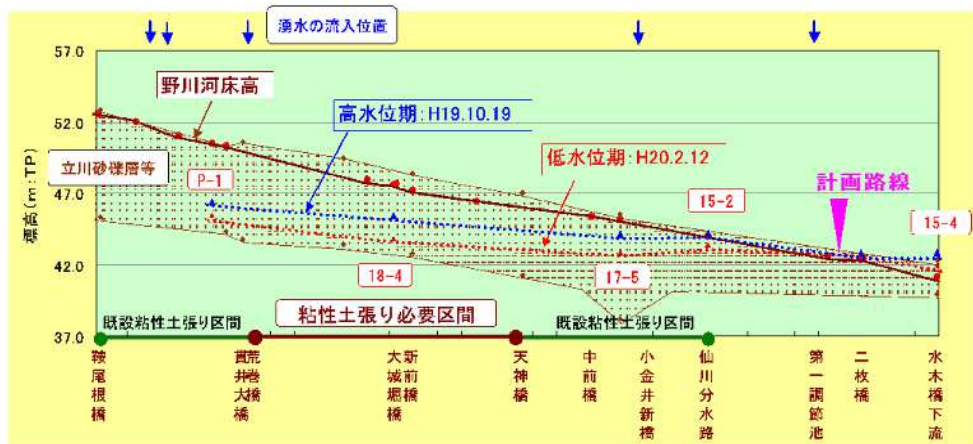


図 2.2.1-12 野川の流量の歴史的変遷・模式図

野川の河床高と浅層地下水との関係を図 2.2.1-13 に示す。この図によると野川の河床は立川砂礫層のほぼ上部に位置するが、上流側では立川砂礫層中の地下水が河床より常時低い状況となっており、河床から地下への漏水が避けられない状況にある。一方、計画路線は第一調節池と二枚坂の間に位置するが、当該区間前後で地下水位と河床高とが同程度となる。



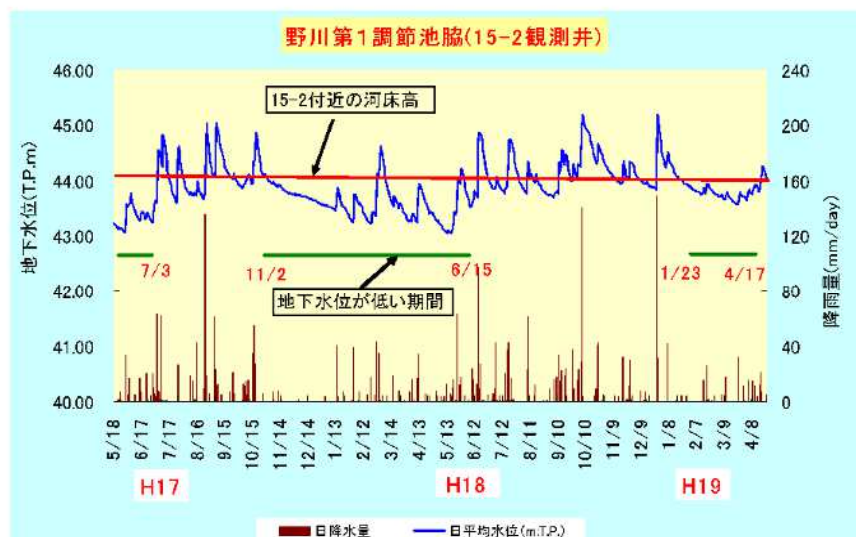
資料：野川上流域における河川水量確保に関する検討 (平 20. 都土木技術センター年報)

図 2.2.1-13 野川の河床高と浅層地下水との関係 (鞍尾根橋～水木橋下流)



過去に第一調節池脇の観測井で確認された地下水位変動と河床との関係を図 2.2.1-14 に示す。当時の調査結果によれば、地下水位が河床より高い時期と低い時期が混在しており、年間を通じて地下水位が河床より低いという状況ではない。

以上の関係性は図 2.2.1-2～図 2.2.1-4 の通り今回実施している地下水の現地調査結果からも伺える。



資料：野川上流域における地下水環境と河川水量確保に関する検討  
(平 19. 都土木技術センター年報)

図 2.2.1-14 野川の河床高と浅層地下水との関係（第一調節池脇）

## (2) 予測・評価及び環境保全対策の検討

事業の実施に伴う地下水への影響について、地域の地下水の状況と事業計画を重ね合わせ、定性的に予測を実施した。また、地下水の影響を最小限に留めるための環境保全対策について検討を行った。

なお、本検討においては、現時点で橋梁、掘割、地下の3つの計画案が検討されているため、各案毎に検討を行い比較評価を行った。

### ア 予測・評価の前提条件

前提条件とした計画案の概要等を図 2.2.1-2～図 2.2.1-4 及び表 2.2.1-1 に示す。

### イ 予測・評価の結果

予測・評価結果を表 2.2.1-3～表 2.2.1-4 に示す。また、環境保全対策を表 2.2.1-6 に示す。

表 2.2.1-2 予測・評価の前提条件（変更範囲等）

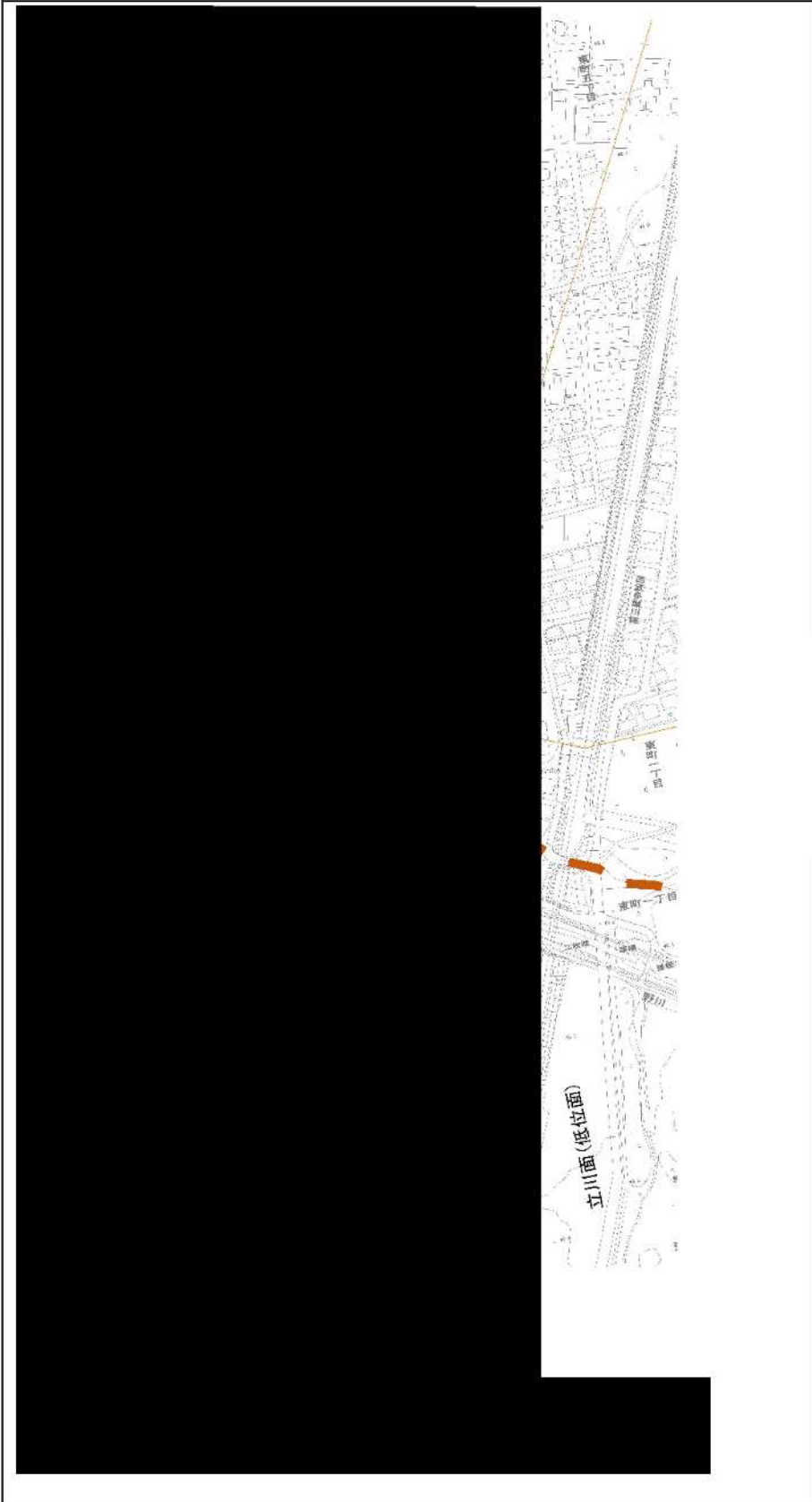
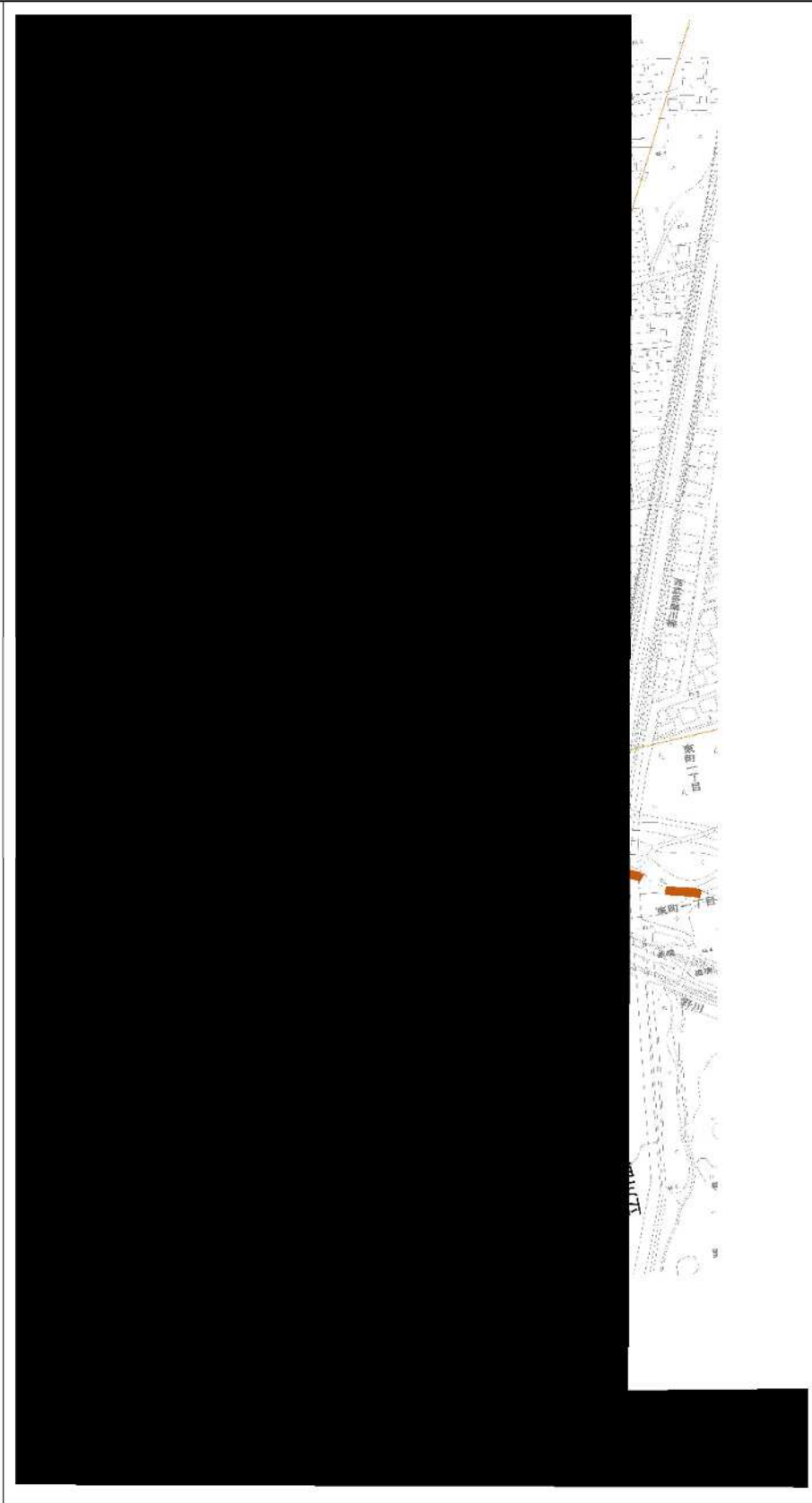
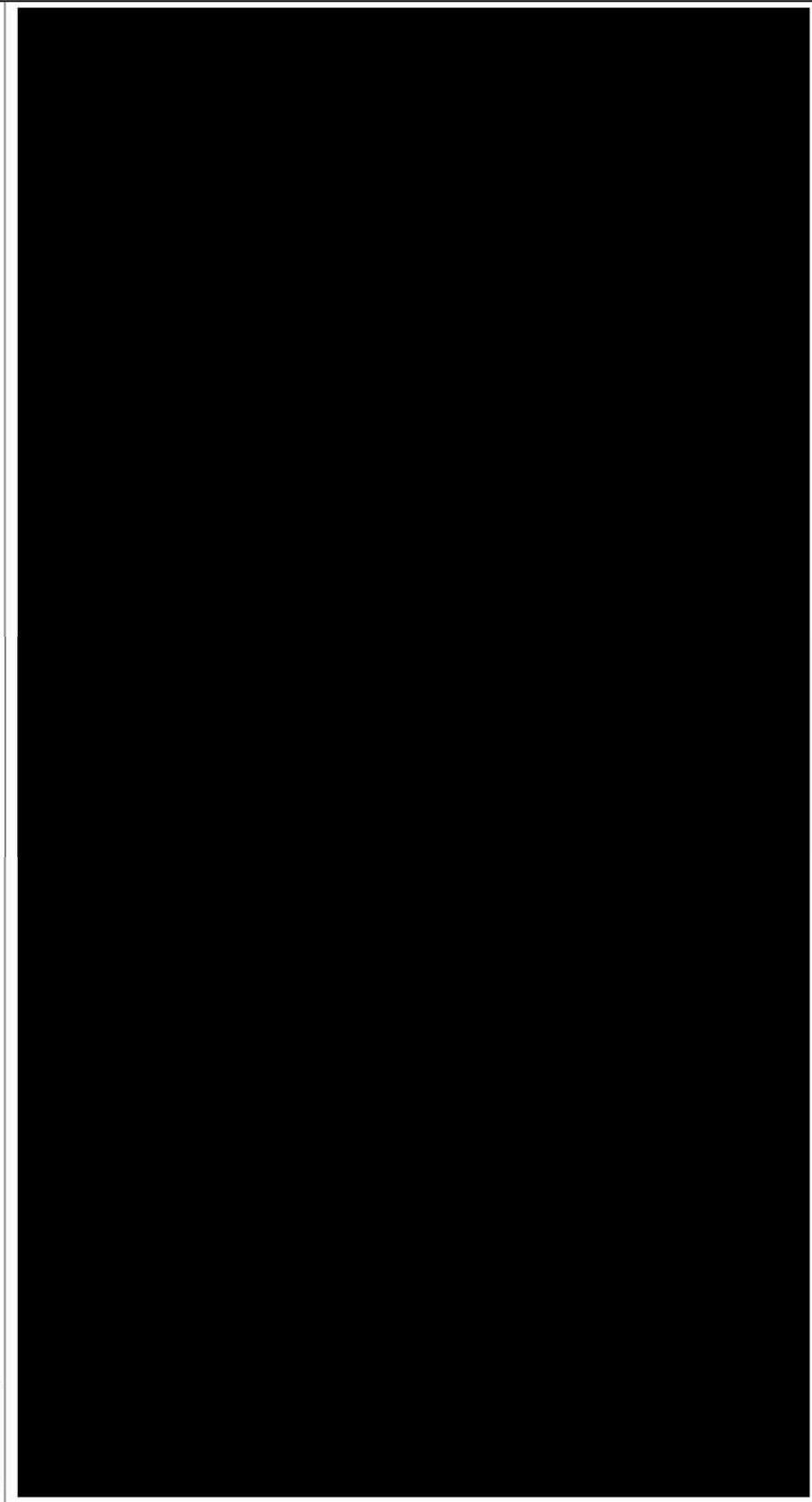
橋梁案	掘割案	地下案
		

表 2.2.1-3 予測・評価の結果

想定される影響など	橋梁案	掘削案	地下案
<p><b>&lt;地下掘削による影響&gt;</b>                      地下の掘削作業時に、掘削面から多量の地下水が湧出することで、周囲の地下水位が低下するおそれがある。                      影響リスクは、帯水層の改変範囲の大きさ、湧出時間（＝地下工事の期間）に比例する。                      湧出を抑制すれば、時間の経過と共に水位の復水が見込まれる。</p>	(立川面)	(立川面)	(立川面)
	(武蔵野面)	(武蔵野面)	(武蔵野面)
<p><b>&lt;地下構造物による流動阻害&gt;</b>                      土留壁や本体構造物が地下水流動を阻害することで、上流側でダムアップによる地下水位の上昇、下流側でダムダウンによる地下水位の低下が生じるおそれがある。                      一方で、地下水は3次元的に広がっているため、構造物に対する地下水の回り込みが生じる。そのため、水位変化は構造物背面で顕著に生じるが、離隔に比例して影響は小さくなる。                      地下水の流れ方向に対し構造物が直角に交差するほど、また、帯水層を遮断する範囲が大きいほど、水位変動におよぼす影響が大きい、影響範囲も広がる。</p>	(立川面)	(立川面)	(立川面)
	(武蔵野面)	(武蔵野面)	(武蔵野面)



表 2.2.1-4 予測・評価の結果

想定される影響など	橋梁案	掘削案	地下案
<p><b>&lt;地下構造物内への漏水&gt;</b>            構築後の地下構造物に地下水が多量に漏水することで、周囲の地下水位が低下するおそれがある。            構造物の止水性が確保できれば、漏水による影響は防止できる。</p>	<p>(立川面)</p>	<p>(立川面)</p>	<p>(立川面)</p>
<p><b>&lt;地下水の低下に起因する湧水への影響&gt;</b>            地下水の著しい低下が生じる範囲に湧水が存在する場合、湧水量の減少もしくは枯渇が生じるおそれがある。</p>	<p>(武蔵野面)</p>	<p>(武蔵野面)</p>	<p>(武蔵野面)</p>

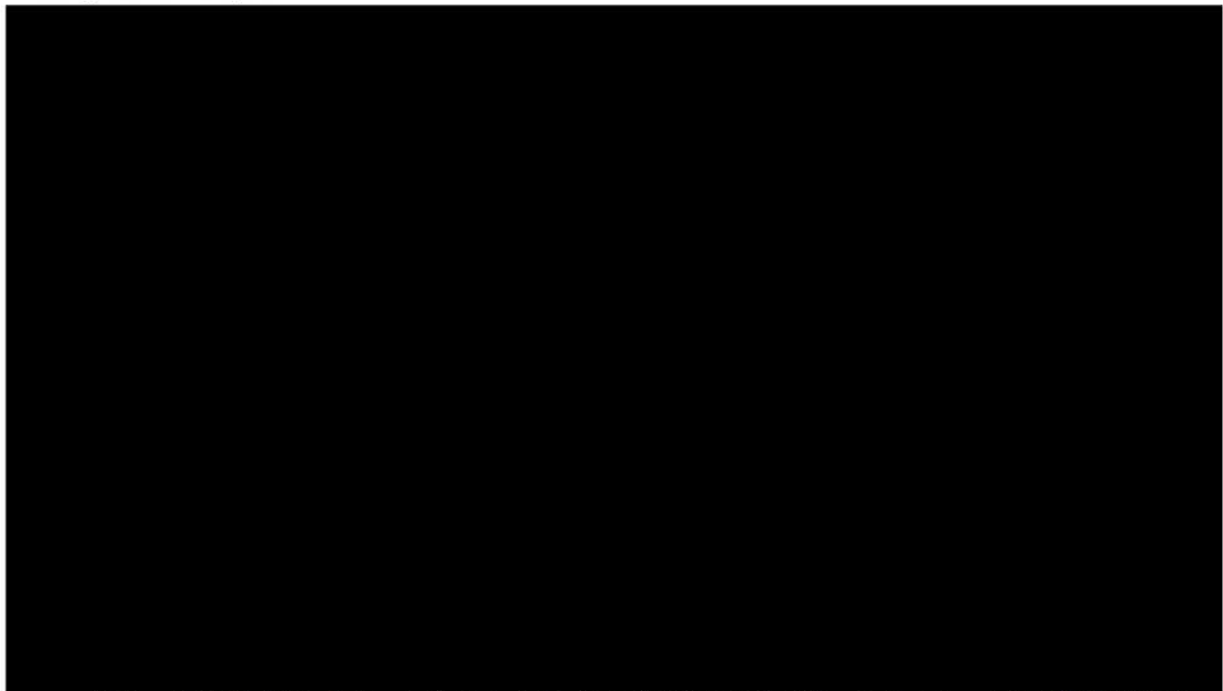
表 2.2.1-5 予測・評価の結果

想定される影響など	橋梁案	掘割案	地下案
<地下水及び湧水の変化に伴う野川への影響>			
評価			

表 2.2.1-6 環境保全対策

環境保全対策	橋梁案	掘割案	地下案
[Redacted content]			

(影響範囲の試算)



資料：地質調査(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年3月、大建基礎株式会社)  
 資料：地質調査(3北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年10月、大建基礎株式会社)

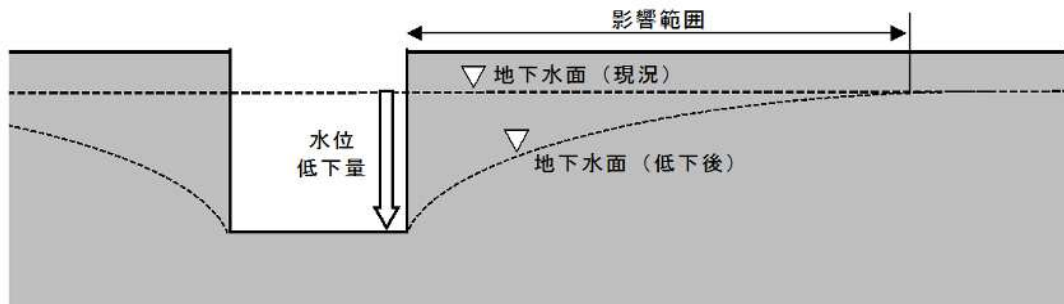


図 影響範囲の概念図

地層層序			
時代	地層名	地層記号	主な土質名
完新世	表土・埋土・崩積土	T	黒ボク
	崩積土	dt	ローム質砂礫 粘土、砂質粘土
	黒ボク	Kb	黒ボク
第四紀	立川ローム	Lm1	ローム、粘土
	立川礫層	Tg	砂礫
	武蔵野ローム	Lm2	ローム
	武蔵野礫層	Ng	砂礫、細砂
更新世	砂質土層	KZ-b	細砂、粘土混じり細砂、 粘土質細砂、砂質粘土
	浮石層	KZ-p	浮石、細砂
	固縮粘土層	KZ-c	粘土、砂混じり粘土、 シルト、砂質粘土
	礫質土層	KZ-g	砂礫、礫混じり細砂、 細砂

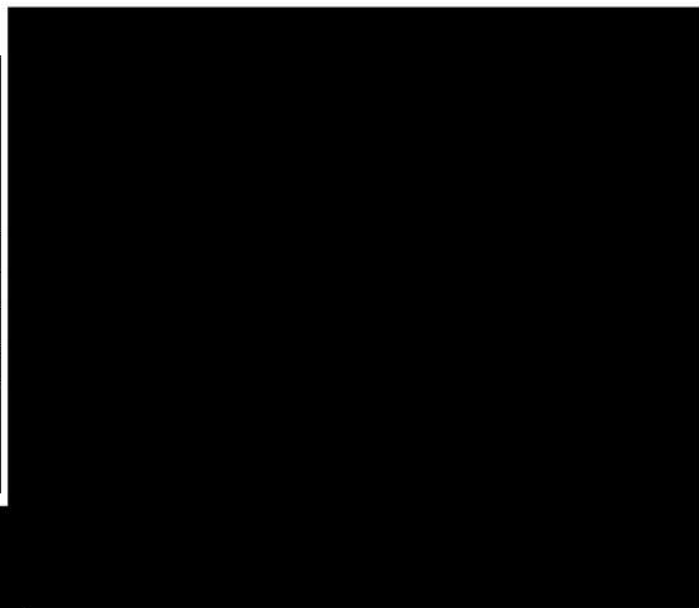


図 試算に用いた条件の根拠



表 現場透水試驗結果

表4-3-1 現場透水試驗結果
[Redacted]
表4-3-1 現場透水試驗結果
[Redacted]

資料：地質調査(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書 (令和3年3月、大建基礎株式会社)

資料：地質調査(3北南-小金井3・4・11外1路線)報告書 (令和3年10月、大建基礎株式会社)

## 2.2.2 動物・植物

### (1) 動物・植物の状況

#### ア 既往の現地調査の概要

計画路線周辺に生息・生育する動物・植物について、既往の現地調査結果を用いて把握した。使用した既往の現地調査結果報告書を表 2.2.2-1 に示す。

なお、調査Ⅰは本業務の検討対象である都市計画道路小金井3・4・11号線に係る環境調査として現地調査を実施したもので、動物については道路計画線端部から250m程度の範囲を、植物については道路計画線端部から100m程度の範囲を調査範囲とし現地調査を実施したものである。

一方、調査Ⅱ～調査Ⅶは別事業の一環として行われている調査であり、調査時期や調査範囲にバラつきがあるものの、一部が調査Ⅰの調査範囲と重複するため、それぞれの調査結果を活用し動物・植物の生息・生育に係る情報を補完した。

※調査Ⅱ～調査Ⅵ：「野川第一・第二調節池地区自然再生事業」の一環として実施したモニタリング調査  
 調査Ⅶ：武蔵野公園の環境調査

表 2.2.2-1 使用した現地調査結果報告書

	報告書名等	調査期間	備考
調査Ⅰ	環境概況調査委託（2北南-小金井3・4・11外1路線）報告書 （令和3年11月、ユーロフィン日本環境株式会社）	令和2年11月 ～令和3年8月	
調査Ⅱ	野川生物調査委託（その8）報告書 （平成28年3月、株式会社フィスコ）	平成27年7月 ～平成28年2月	情報補完
調査Ⅲ	野川生物調査委託（その9）報告書 （平成29年3月、株式会社フィスコ）	平成28年7月 ～平成29年1月	情報補完
調査Ⅳ	野川生物調査委託（その10）報告書 （平成30年3月、株式会社海洋生物研究所）	平成29年8月 ～平成30年1月	情報補完
調査Ⅴ	野川生物調査委託（その11）報告書 （平成31年3月、株式会社水辺環境研究所）	平成30年6月 ～平成31年1月	情報補完
調査Ⅵ	野川生物調査委託（その12）報告書 （令和2年3月、株式会社フィスコ）	令和元年6月 ～令和2年2月	情報補完
調査Ⅶ	西部公園緑地事務所委託業務報告書（速報版）	令和3年4月 ～令和4年5月	情報補完

表 2.2.2-2 現地調査の実施状況

	哺乳類	鳥類	両生類 爬虫類	昆虫類	魚類	底生動物	クモ類	陸産貝類	植物
調査Ⅰ	○	○	○	○	○	○	—	—	○
調査Ⅱ	—	—*	—	○	○	○	—	—	○
調査Ⅲ	—	—*	—	○	○	○	—	—	○
調査Ⅳ	—	—*	—	○	○	○	—	—	○
調査Ⅴ	—	—*	—	○	○	○	—	—	○
調査Ⅵ	—	—*	—	○	○	○	—	—	○
調査Ⅶ	○	○	○	○	—	—	○	○	○

※調査Ⅱ～調査Ⅵでは複数の地域で調査を実施しているため、ここでは計画路線に近い委託箇所①の調査結果を補完情報として取り扱った（図 2.2.2-2 参照）。なお、鳥類の調査は委託箇所①で行われていないため、補完情報から除外した。

表 2.2.2-3 現地調査の概要（調査Ⅰ）

調査項目		調査地点、調査範囲	実施時期
動物	哺乳類	道路計画線端部から 250m 程度の範囲、 トラップ 2 箇所	春季(令和 3 年 4 月 19・20 日) 秋季(令和 2 年 11 月 12・13 日)
	鳥類	道路計画線端部から 250m 程度の範囲	冬季(令和 3 年 1 月 13 日) 春季(令和 3 年 5 月 11 日) 夏季(令和 3 年 7 月 6 日)
	両生類・ 爬虫類	道路計画線端部から 250m 程度の範囲	春季(令和 3 年 4 月 19・20 日) 夏季(令和 3 年 7 月 2 日)
	昆虫類	道路計画線端部から 250m 程度の範囲、 トラップ 2 箇所程度	春季(令和 3 年 5 月 6・7 日) 夏季(令和 3 年 8 月 2・3 日)
	魚類	道路計画線端部から 250m 程度の範囲の 河川(野川及び自然再生地)	夏季(令和 3 年 8 月 20 日)
	底生動物	道路計画線端部から 250m 程度の範囲の 河川(野川及び自然再生地)	夏季(令和 3 年 7 月 29 日)※
植物	植物相	道路計画線端部から 100m 程度の範囲	早春(令和 3 年 3 月 17 日) 春季(令和 3 年 4 月 27 日) 夏季(令和 3 年 7 月 2 日) 秋季(令和 2 年 11 月 4 日)
	植物群落	道路計画線端部から 100m 程度の範囲、 コドラート 7 カ所	夏季(令和 3 年 7 月 20 日)

※底生動物調査は春季に予定していたが、調査対象区間の野川は 6 月下旬まで水が無く調査ができない状況だったことから 7 月下旬の実施となった。

資料：環境概況調査委託（2 北南－小金井 3・4・11 外 1 路線）報告書  
（令和 3 年 11 月、ユーロフィン日本環境株式会社）



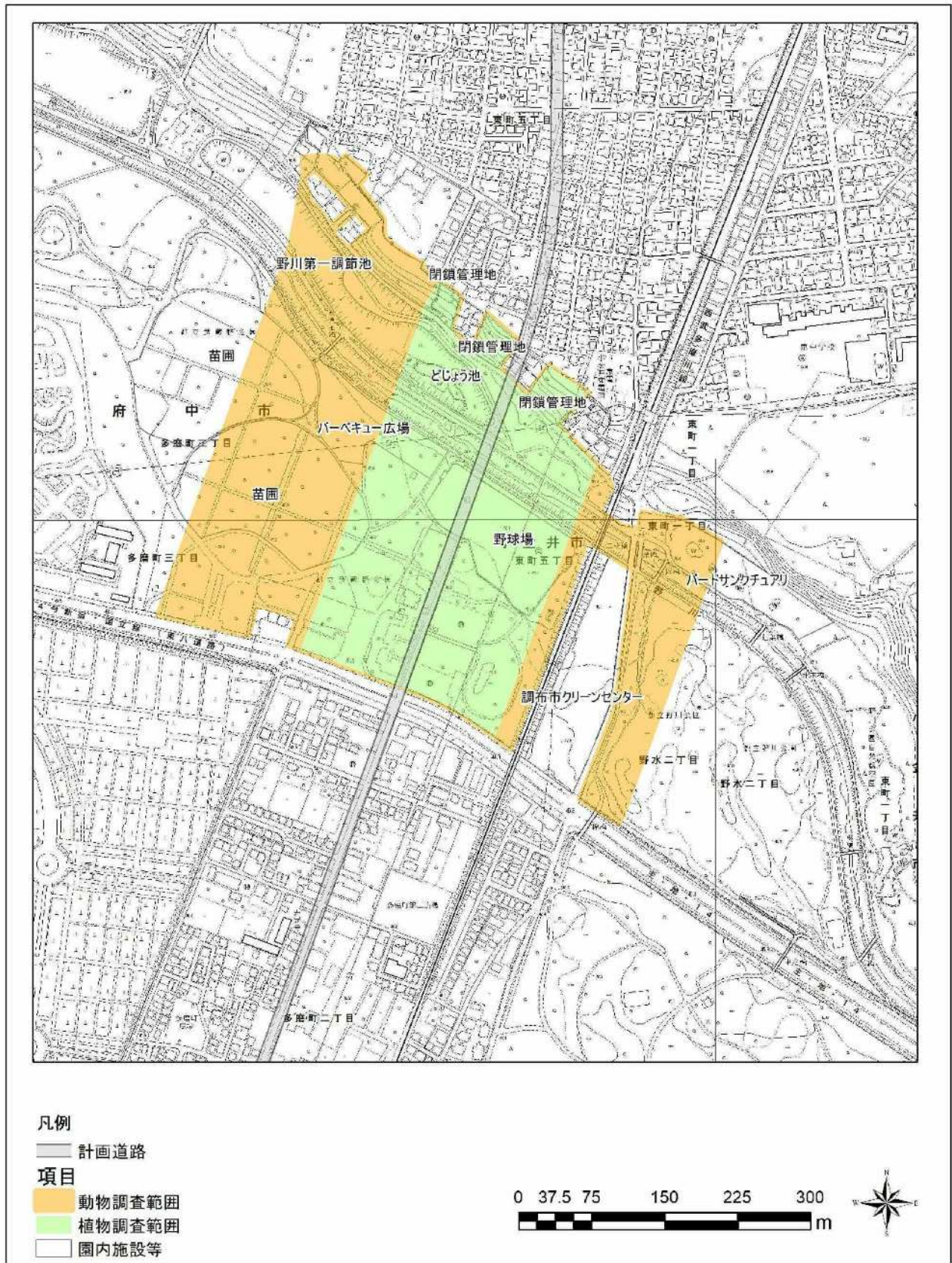


図 2.2.2-1 調査範囲（調査 I）

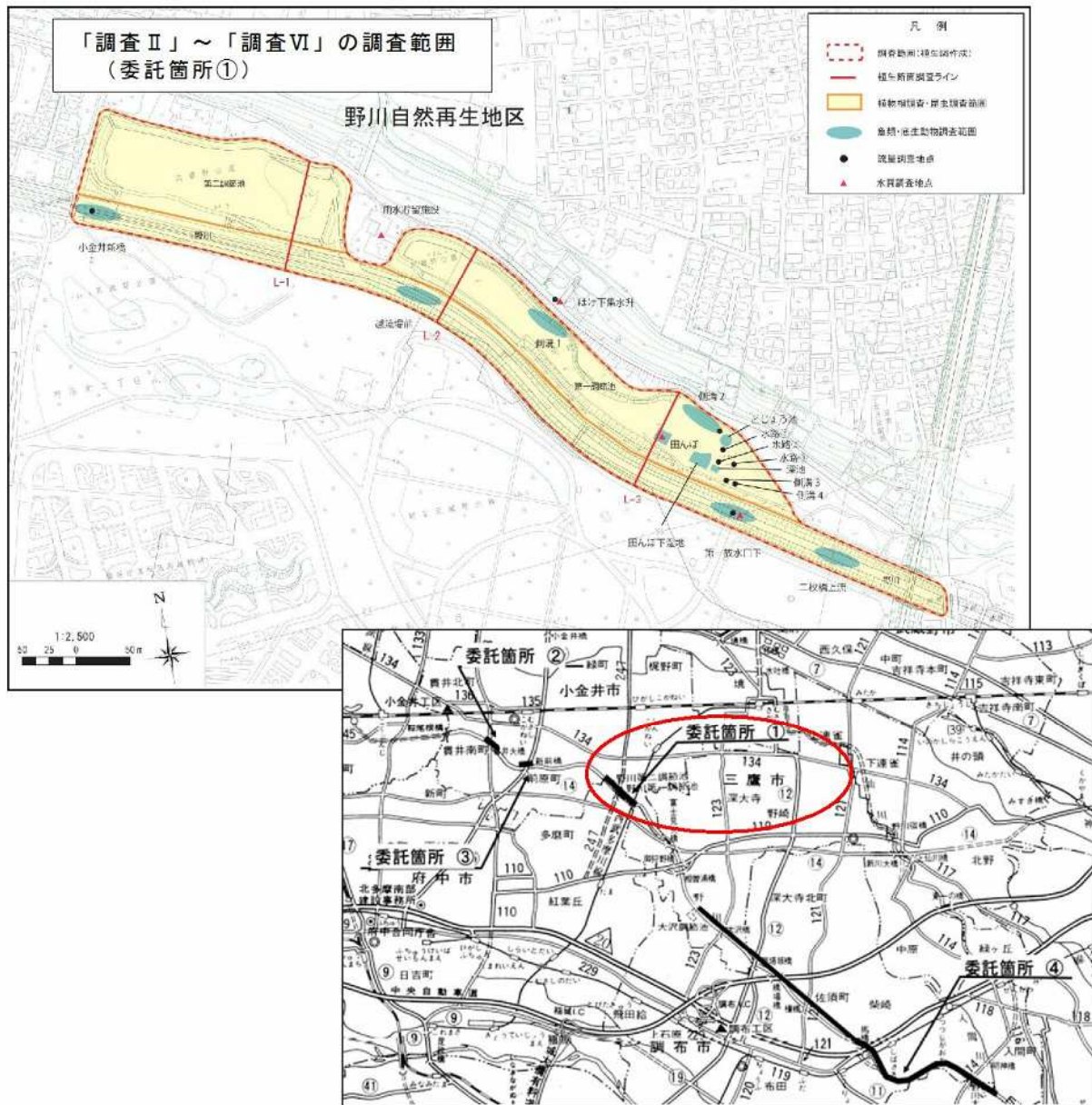


表 2.2.2-4 現地調査の概要①（その他の調査（調査Ⅱ～調査Ⅶ））

調査項目	実施時期	
哺乳類	調査Ⅶ	2021/8/10、11、17、18（夏季） 2021/10/26、28、11/4（秋季） 2022/2/3（冬季） 2022/3/24、25（早春季）
鳥類	調査Ⅱ	2015/7/31（夏季） 2015/10/13（秋季） 2016/2/3（冬季）
	調査Ⅲ	2016/8/1（夏季） 2016/10/14（秋季） 2017/1/1（冬季）
	調査Ⅳ	2017/8/9、10、18（夏季） 2017/10/14、11/6、7（秋季） 2018/1/15、16（冬季）
	調査Ⅴ	2018/8/15、16、17（夏季） 2018/10/20、21、22、23（秋季） 2019/1/15、16、17（冬季）
	調査Ⅶ	2021/4/28（春季） 2021/8/10、11（夏季） 2021/11/4、5、11（秋季） 2022/1/4、2/3（冬季）
両生類・爬虫類	調査Ⅶ	2021/8/10、11、17、18（夏季） 2021/10/26、28、11/4（秋季） 2022/2/3（冬季） 2022/3/24、25（早春季）
昆虫類	調査Ⅱ	2015/8/7、8、9、15、16（夏季） 2015/10/13、14、15、16、11/5（秋季） 2016/2/20、21（冬季）
	調査Ⅲ	2016/7/11、12、15（夏季） 2016/10/12、13、14（秋季） 2017/1/30、31（冬季）
	調査Ⅳ	2017/8/9、10（夏季） 2017/11/6、7（秋季） 2018/1/15、16（冬季）
	調査Ⅴ	2018/8/15、16、17（夏季） 2018/10/20、21、22、23（秋季） 2019/1/15、16、17（冬季）
	調査Ⅵ	2019/5/13、14（春季） 2019/7/22、8/1、2、5（夏季） 2019/9/30、10/1（秋季） 2020/2/3、4（冬季）
	調査Ⅶ	2021/4/30、5/6、7、11（春季） 2021/6/10、11、15、16（初夏季） 2021/8/2、3、4、5、10、11、17、18（夏季） 2021/10/20、21、26、28、11/4、10、11、17、18（秋季）
クモ類	調査Ⅶ	2021/6/10、11、15（初夏季） 2021/8/2、3、4、5、11（夏季） 2021/10/20、21、26、27、28、11/4、9、11（秋季）
陸産貝類	調査Ⅶ	2021/6/10、11、15、16（初夏季） 2021/8/17（夏季） 2021/10/26、27、11/9、10（秋季）
魚類	調査Ⅱ	2015/8/3、4、5（夏季） 2015/10/19、20、21（秋季） 2016/1/22、23、31（冬季）
	調査Ⅲ	2016/8/1、2、3（夏季） 2016/10/21、26（秋季） 2017/1/23、24、25（冬季）
	調査Ⅳ	2017/8/1、2、3、4（夏季） 2017/10/25、26、27、11/7（秋季） 2018/1/16、17、18、19（冬季）
	調査Ⅴ	2018/8/15、16、17（夏季） 2018/10/23、24、25（秋季） 2019/1/22、23、24（冬季）
	調査Ⅵ	2019/6/5（春季） 2019/8/5（夏季） 2019/10/21（秋季） 2020/2/3、4（冬季）
底生動物	調査Ⅱ	2015/8/3、4、5（夏季） 2015/10/19、20、21（秋季） 2016/1/22、23、31（冬季）
	調査Ⅲ	2016/8/1、2、3（夏季） 2016/10/21、26（秋季） 2017/1/23、24、25（冬季）
	調査Ⅳ	2017/8/1、2、3、4（夏季） 2017/10/25、26、27、11/7（秋季） 2018/1/16、17、18、19（冬季）
	調査Ⅴ	2018/8/15、16、17（夏季） 2018/10/23、24、25（秋季） 2019/1/22、23、24（冬季）
	調査Ⅵ	2019/6/5（春季） 2019/8/5（夏季） 2019/10/21（秋季） 2020/2/3、4（冬季）

表 2.2.2-5 現地調査の概要②（その他の調査（調査Ⅱ～調査Ⅶ））

調査項目	実施時期	
植物調査	調査Ⅱ	2015/7/29、30、31、8/10（夏季）      2015/10/26、28、29、30（秋季） 2016/2/1、3（冬季）
	調査Ⅲ	2016/7/6、7、8、14、19（夏季） 2016/10/7、10、11、13、15、19（秋季） 2017/1/22、23、25、28、29（冬季）
	調査Ⅳ	2017/8/9、10、18（夏季）      2017/11/6、7、8（秋季） 2018/1/15、16（冬季）
	調査Ⅴ	2018/6/26（初夏季）      2018/8/15、16、17、18、19、20（夏季） 2018/11/7、8、9、10（秋季）      2019/1/16、17、18、19（冬季）
	調査Ⅵ	2019/5/27、28（春季）      2019/7/22、24（夏季） 2019/9/30、10/1（秋季）      2020/2/3、4（冬季）
	調査Ⅶ	2021/4/28、30、5/6、7、12（春季） 2021/8/2、3、4、5、9（夏季）      2021/10/20、21、26、27、28（秋季） 2022/3/24、25（早春季）      2022/4/7（春季）



資料：野川生物調査委託（その12）報告書（令和2年3月、株式会社フィスコ）  
野川生物調査委託（その11）報告書（平成31年3月、株式会社水辺環境研究所）

※調査Ⅶの調査範囲は、武蔵野公園全域となっている。

図 2.2.2-2 調査範囲（その他の調査（調査Ⅱ～調査Ⅶ））

## イ 調査結果

### ①動物相

計画路線周辺の動物について、2021年度に実施した調査Ⅰにおいて哺乳類3目4科4種、鳥類10目25科35種、両生類・爬虫類3目7科8種、昆虫類14目136科425種、魚類3目4科11種、底生動物18目37科66種が確認された。

調査Ⅰ～調査Ⅶで確認された動物種について、表2.2.2-6の選定基準により注目される種を選定した。その結果、計画路線周辺に生息する注目される種として、表2.2.2-7～表2.2.2-8に示す鳥類10種、爬虫類5種、両生類2種、昆虫類18種、クモ類1種、陸産貝類1種、魚類8種、底生動物5種の注目される種が選定された。哺乳類については注目される種は確認されなかった。

※注目される種の確認位置図は、資料編に示す。



表 2.2.2-6 注目される動物種の選定基準

No.	略称	選定基準
①	文化財保護法	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 3 年 4 月 23 日法律第 22 号）に基づく国の天然記念物、特別天然記念物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別天然記念物(特天)</li> <li>・天然記念物(国天)</li> </ul>
②	種の保存法	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和 1 年 6 月 14 日法律第 37 号）における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内希少野生動植物種(国内)</li> <li>・特定第一種国内希少野生動植物種(一種)</li> <li>・特定第二種国内希少野生動植物種(二種)</li> <li>・国際希少野生動植物種(国際)</li> </ul>
③	環境省 2020	環境省レッドリスト 2020（令和 2 年 3 月、環境省） <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅(EX)：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</li> <li>・野生絶滅(EW)：飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種</li> <li>・絶滅危惧 I 類(CR+EN)：絶滅の危機に瀕している種</li> <li>・絶滅危惧 I A 類(CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</li> <li>・絶滅危惧 I B 類(EN)：I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</li> <li>・絶滅危惧 II 類(VU)：絶滅の危険が増大している種</li> <li>・準絶滅危惧(NT)：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性がある種</li> <li>・情報不足(DD)：評価するだけの情報が不足している種</li> <li>・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</li> </ul>
④	東京都 2020	東京都レッドリスト(本土部)2020 年版（令和 3 年 4 月、東京都環境局） <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅(EX)：当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの</li> <li>・野生絶滅(EW)：当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの</li> <li>・絶滅危惧 I 類(CR+EN)：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの</li> <li>・絶滅危惧 I A 類(CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</li> <li>・絶滅危惧 I B 類(EN)：I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</li> <li>・絶滅危惧 II 類(VU)：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの</li> <li>・準絶滅危惧(NT)：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの</li> <li>・情報不足(DD)：環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの</li> <li>・留意種(*)：現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、次の理由（選定理由①～⑥）のいずれかにより容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの</li> </ul> <p>&lt;選定理由&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生息、生育環境が減少もしくは悪化することで、個体数が減少するおそれがある。</li> <li>②生息地の限定もしくは分断による個体群の縮小あるいは孤立化により、個体数が減少するおそれがある。</li> <li>③人為的な環境配慮により個体群が維持されているが、人為的な環境配慮が失われた場合、個体数が減少するおそれがある。</li> <li>④外来種の影響により、個体数が減少するおそれがある。</li> <li>⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている種であり、これら特殊な環境が失われた場合、個体数が減少するおそれがある。</li> <li>⑥かつて悪化していた環境の回復にともない個体群規模が戻ったが、その状況は不安定であり、環境が変化すれば個体数が減少するおそれがある。</li> </ol>

表 2.2.2-7 既往の現地調査結果から把握した注目される種（動物相①）

分類	No.	日名	科名	和名(和名)	和名(学名)	現地調査							東部編道区上陸								
						I	II	III	IV	V	VI	VII	①	②	③	④					
哺乳類	計	0種	0科	0種	0種	0種															
鳥類	1	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●														DO	
	2	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	3	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	4	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	5	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	6	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	7	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	8	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	9	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
	10	ツル	ツル科	ツル	<i>Grus japonensis</i>	●															VI
両生類	計	4種	4科	4種	4種	4種															
爬虫類	1	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	2	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
昆虫類	1	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	2	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	3	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	4	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	5	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	6	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	7	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	8	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	9	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	10	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	11	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	12	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	13	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	14	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	15	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	16	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	17	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
	18	トビ	トビ科	トビ	<i>Buteo japonicus</i>	●															VI
計	5日	11種	11科	11種	11種	9種	4種	3種	0種	0種	3種	2種	0種	0種	1種	1種	1種	1種	13種		

- ※1 種名及び分類は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2021年版)(令和3年、国土交通省)」に準拠した。
- ※2 ヒキガエルについて
  - ・東京都は亜種アズマヒキガエルの自然分布域であるが、西日本の亜種ニホンヒキガエルと交雑が進んでいることが明らかにされている。今回確認されたのは幼体と幼生であることから、亜種アズマヒキガエルかニホンヒキガエルか同定されていないため「ヒキガエル」とした。
  - (資料：環境概況調査委託(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年11月、ユーロフィン日本環境株式会社))
  - ・ここでは、「ヒキガエル」が「アズマヒキガエル」である可能性が否定できないため、アズマヒキガエルと同様の扱いとした。
- ※3 既往の現地調査結果報告書で「シラホシハナムグリ(昆虫類)」が確認されているが、東京都では外来個体が侵入しており、報告書でも移入個体群として記録されている。そのため、重要種として扱わなかった。
- (資料：環境概況調査委託(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年11月、ユーロフィン日本環境株式会社))



表 2.2.2-8 既往の現地調査結果から把握した注目される種（動物相②）

分類	No.	日名	科名	種名 (和名)	種名 (学名)	現地調査											重要種判定基準					
						I	II	III	IV	V	VI	VII	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫					
タモ類	1	タモ	トウナグモ	キシノウエトウナグモ	<i>Latouchia typica</i>																	
	計	1日	1科	1種		0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	
陸産 貝類	1	柄眼	スナガイ	スナガイ	<i>Gastrosoma armigerella</i>																	
	計	1日	1科	1種		0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	
魚類	1	コイ	コイ	ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.																	
	-			フナ類 (※2)	<i>Carassius</i> sp.																	
	2			オイカワ	<i>Quasitichthys platypus</i>																	
	3			タナゴ (※3)	<i>Acheilognathus neohobbesi</i>																	
	4			ドジョウ類 (※4)	<i>Hyporhamphus angulidorsatus</i> sp. complex																	
	5			ヒョウシマドジョウ	<i>Uchisato</i> sp. BIRAL type 1																	
	-			シマドジョウ種群 (※5)	<i>Gobryx hiogo</i> complex																	
	6			ホトケドジョウ	<i>Lebia schizota</i>																	
	7	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>																	
	-			メダカ類 (※6)	<i>Oryzias</i> sp.																	
	8	スズキ	ハゼ	ウキゴリ	<i>Gymnocheilus arataenia</i>																	
計	3日	4科	8種			5種	5種	5種	4種	5種	5種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	4種	11種		
水生 動物	1	柄眼	オカモノヅラガイ	ナガオカモノヅラガイ	<i>Dryoloma hiranoi</i>																	
	2	混有肺	カワヨシラガイ	カワヨシラガイ	<i>Dryoloma nipponica</i>																	
	3	ゴビ	オオメシロ	スシシロ	<i>Palaemon japonicus</i>																	
	4	カメムシ (半翅)	アメンボ	オオアメンボ	<i>Amenobas elongatus</i>																	
	5	ヘビトンボ	センブリ	センブリ属 (※7)	<i>Stalys</i> sp.																	
計	5日	5科	5種			3種	1種	0種	1種	0種	3種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	5種	

- ※1 種名及び分類は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2021年版)(令和3年、国土交通省)」に準拠した。
- ※2 フナ類について  
フナ類は確実な種の同定に至らなかったが、「ギンブナ」に該当する可能性が高いため重要種として扱った。(資料：環境概況調査委託(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年11月、ユーロフィン日本環境株式会社))
- ※3 タナゴについて  
「レッドデータブック東京」によると、タナゴは都内の区部、北多摩部では絶滅したと考えられている。そのため、確認された個体は放流由来個体の可能性がある。
- ※4 ドジョウ類について  
・ドジョウ類は確実な種の同定に至らなかったが、「ドジョウ」「キタドジョウ」に該当する可能性が高いため重要種として扱った。ドジョウ類は近年、遺伝子レベルの分析から外観から識別の難しい複数の種からなることが明らかになっており、今回確認されたものはドジョウかキタドジョウと考えられる。(資料：環境概況調査委託(2北南-小金井3・4・11外1路線)報告書(令和3年11月、ユーロフィン日本環境株式会社))  
・ドジョウは近年、「ドジョウ」、「キタドジョウ」、「シノビドジョウ」、「ヒョウモンドジョウ」に細分された。このうち、東京都に自然分布する可能性が考えられる種は「ドジョウ」或いは「キタドジョウ」となる。環境省レッドリストでは「ドジョウ」はNT、「キタドジョウ」はDDに該当する。東京都レッドリストでは北多摩及び本土部で、いずれもDDに該当する。
- ※5 シマドジョウ種群について  
・ここでは、委託報告書で「シマドジョウ」と掲載されていた種を「シマドジョウ種群」とした。  
・シマドジョウは近年、「ヒガシシマドジョウ」、「ニシシマドジョウ」、「オオシマドジョウ」に細分されたが、このうち東京都に自然分布する種は「ヒガシシマドジョウ」のみである。そのため、ここでは「ヒガシシマドジョウ」と同様の扱いとした。
- ※6 メダカ類について  
・ここでは、委託報告書で「メダカ」及び「メダカ類」と掲載されていた種を「メダカ類」とした。  
・メダカは近年、「キタノメダカ」及び「ミナミメダカ」に細分された。このうち東京都に自然分布する種は「ミナミメダカ」のみである。ただし、ヒメダカ等放流由来の個体との交雑が各地で進んでいるため、確認個体が交雑種の可能性がある。しかし、ここでは「ミナミメダカ」と同様の扱いとした。  
・ここでは、「ミナミメダカ」である可能性が否定できないため、ミナミメダカと同様の扱いとした。
- ※7 センブリ属について  
センブリ属は、「ネグロセンブリ」、「トウホククロセンブリ」、「ヤマトセンブリ」等の可能性がある。「ネグロセンブリ」及び「トウホククロセンブリ」の場合は東京都レッドリストのVUに該当する。「ヤマトセンブリ」の場合は環境省レッドリストのDD及び東京都レッドリストのCRに該当する。その他の場合はランク外となる。

表 2.2.2-9 注目される動物種の生息状況（鳥類①）

	<p>クイナ（ツル科） 東京都レッドリスト 情報不足 (DD)</p> <p>生態等 体長 29cm。成鳥は額から尾までの上面は茶褐色で、顔から胸にかけては青灰色。平地から低山地の河川、湖沼、湿地などに生息し、植物の種子や昆虫類、カエル類、小魚などを食べる。 都内では海岸の埋立地や河川のヨシやガマが生育する湿地に少数渡来し越冬する。近年やや増加傾向にある。</p> <p>確認状況 2021 年度秋季に [ ] において、1 箇所 で 1 例 が確認された。</p>
 <p>※写真は「レッドデータブック東京」より</p>	<p>ツミ（タカ科） 東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)</p> <p>生態等 体長雄 27cm、雌 30cm。雄成鳥は頭部からの上面が暗青灰色で体下面は白く、胸から脇は淡橙色。平地から山地の樹林に生息し、繁殖する。主にスズメ、シジュウカラなどの小鳥や昆虫類を食べる。 都内では、平地や丘陵地、山地などの樹林や河畔林に生息するが、個体数は少ない。最近では市街地の公園などの樹林でも営巣することがある。</p> <p>確認状況 2021 年度春季に [ ] の上空を飛翔する 1 例 が確認された。</p>
	<p>オオタカ（タカ科） 環境省レッドリスト 準絶滅危惧 (NT) 東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)</p> <p>生態等 体長雄 50cm、雌 56.5cm。頭部からの体上面は暗青灰色で、体下面は白く細い暗灰色の横帯がある。平地から山地の樹林に生息し、繁殖する。ハト類やカモ類など主に中型の鳥類を食べる。 都内では低山地から丘陵地、平地の人があまり立ち入らない樹林で営巣するが、個体数は少ない。冬は、公園など都市緑地の樹林でも見られる。 [ ] で営巣しているとの情報がある。</p> <p>確認状況 2021 年度秋季に [ ] の上空を飛翔する 1 例 が確認された。 2022 年春季に [ ] の上空を飛翔する 1 例 が確認された。</p>



表 2.2.2-10 注目される動物種の生息状況（鳥類②）

	カワセミ（ブッポウソウ科） 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)
	<p>生態等</p> <p>体長 17cm。成鳥は背面が光沢のある青色で、頭部、頬、雨覆は黒褐色。胸からの体下面は橙色。平地から低山地の河川、湖沼、都市公園の池などに生息する。小魚やザリガニ、エビ類、カエル類などを食べる。</p> <p>都内では水質汚染が激しかった 1960～70 年代は多摩地域の西部まで分布が縮小したが、近年は都市部の小河川や公園の池でも見られる。</p>
 <p>※写真は「レッドデータブック東京」より</p>	サンショウクイ（サンショウクイ科） 環境省レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU) 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)
	<p>生態等</p> <p>体長 20cm。雄成鳥は額、喉から側頸と体下面は白く、背面は灰色。翼と尾は黒褐色。頭頂から後頸、過眼線は黒くつながっており、嘴と足は黒色。平地から山地の広葉樹林に生息し、昆虫類やクモ類を食べる。</p> <p>都内では、以前は都心部の樹林で繁殖期の記録があり、南多摩や西多摩の樹林に生息していたが、近年は渡りの時期に通過個体が見られるのみである。</p>
写真なし	リュウキュウサンショウクイ（サンショウクイ科） 東京都レッドリスト 情報不足 (DD)
	<p>生態等</p> <p>体長 20 cm。雄成鳥は額から眉斑が白く、その面積が狭い。頭頂からの体下面は光沢のある青黒色。雌成鳥は頭頂から背に灰色みがある。</p> <p>2008 年以降九州北部から四国南部に生息域が拡大し、東京都でも 2017 年に記録されている。</p>
	<p>確認状況</p> <p>2021 年度秋季に [ ] 内において、1 箇所ですべて 1 例が確認された。</p>

表 2.2.2-11 注目される動物種の生息状況（鳥類③）

	モズ（モズ科） 東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)
	<p>生態等</p> <p>体長 20cm。雄成鳥は頭部から後頭が茶褐色で、過眼線は黒い。背面は灰色、翼と尾は黒褐色。平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・爬虫類などを食べる。</p> <p>都内では河川敷、丘陵地の低木林や草地、雑木林、耕作地、公園、住宅地などに広く生息し、繁殖をしている。</p>
<p>確認状況</p> <p>2021 年度秋季及び冬季に [ ] や [ ] 付近において、3 箇所 で 3 例が、2022 年度秋季に [ ] 内において、1 箇所 で 1 例が確認された。</p>	
	オナガ（カラス科） 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)
	<p>生態等</p> <p>体長 37cm。雌雄同色。成鳥は頭部が黒く、頸は白い。背は灰色で、翼と尾羽は白色。尾羽の羽先は白い。市街地から山地の林に生息し、昆虫類の幼虫、草木の実や種子など、なんでも採食する。</p>
<p>確認状況</p> <p>2021 年度春季に [ ] において、1 箇所 で 1 例の声が確認された。</p>	
	センダイムシクイ（ムシクイ科） 東京都レッドリスト 絶滅危惧 IA 類 (CR)
	<p>生態等</p> <p>体長 12.5cm。成鳥は頭部から背にかけてオリーブ色。頭中央線は淡色だが個体によっては不明瞭。平地から山地の落葉広葉樹林に生息し、昆虫類などを食べる。</p> <p>都内では西多摩や南多摩の丘陵地や山地の広葉樹林に渡来し、繁殖している。春・秋の渡りの時期には、平地の樹林でも見られる。</p>
<p>確認状況</p> <p>2021 年度春季に [ ] において、1 箇所 でさえずっている個体 1 例が、2022 年度春季に [ ] 内において、1 箇所 で 1 例が確認された。</p>	
	イカル（アトリ科） 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)
	<p>生態等</p> <p>体長 23cm。成鳥は頭部が黒色で、顔や後頭から背、腰、喉から腹までは灰褐色。嘴は黄色で、太く大きい。平地から山地の落葉広葉樹林に生息し、木の実や種子を食べる。冬は暖地に移動する。</p> <p>都内では南多摩や西多摩の自然林に周年生息し、繁殖している。冬は平地の樹林にも移動する。</p>
<p>確認状況</p> <p>2021 年度冬季に [ ] 1 箇所 で 1 例が確認されたほか、2021 年度夏季に [ ] において、1 箇所 で 1 例の声が確認された。</p>	